

科目名		生命倫理・動物福祉		開講期	1年前期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1	
授業形態	演習	科目区分	必修	担当講師	菊地	
科目概要		動物福祉の概念、分類別の動物を取り扱う上での福祉的配慮とは何かを理解する				
到達目標		さまざまな分野で動物福祉を考慮し、対応できる知識を身に付ける				
科目概要 授業計画	1	動物福祉とは：歴史、動物観、背景				
	2	動物の生命倫理とは：倫理とは、生命倫理と動物福祉、看護師としての役割				
	3	動物福祉の概念：動物福祉と権利				
	4	動物愛護（保護）と愛護運動：西洋と日本の運動、活動				
	5	動物の福祉と社会：法律、経済活動				
	6	伴侶動物の福祉とはⅠ：飼育の現状と福祉				
	7	伴侶動物福祉とはⅡ：虐待、多頭飼育崩壊など				
	8	産業動物の福祉とは：日本と海外における産業動物の歴史と福祉について				
	9	展示動物の福祉とは：環境エンリッチメント				
	10	野生動物の福祉とは：何をすべきか、看護師として何が出来るか				
	11	実験動物の福祉とは：3Rの法則と今後の課題				
	12	動物福祉の評価Ⅰ：生理学的指標				
	13	動物福祉の評価Ⅱ：行動学的指標				
	14	SDGsとは、SDGsと動物福祉				
	15	我々一人ひとりができることとは				
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	30%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	課題提出				
使用教科書・教材		緑書房				
注意事項		スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				
関連科目						

科目名		動物形態機能学			開講期	1年前期
単位時間	120	コマ数	60	単位数	8	
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	三浦	
科目概要		動物看護師の養成に必要な基礎動物学の1つとして、動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立します。				
到達目標		他教科を学ぶ上での基礎として不可欠である、解剖生理学や比較解剖学、基礎的な栄養学などの知識を習得します。				
科目概要 授業計画	1	第1章 生命のすがた：細胞、組織、体液、体腔、体を構成する器官のもととなる組織、細胞、体の基本構造や体液、体腔、動物の体の向きを表す用語				
	2	第2章 循環器とその調節 心臓、血管系、リンパ管系の構造や位置、役割について、胎子循環について				
	3	第3章 呼吸器とその調節 呼吸器の構造、ガス交換のしくみ、酸素と二酸化炭素の運搬について				
	4	第4章 消化器と栄養代謝 消化器 消化管と消化腺について、動物種ごとに特徴的な消化管の構造について				
	5	第4章 消化器と栄養代謝 栄養代謝 消化と吸収、代謝のしくみについて				
	6	第5章 内分泌とホルモン 外分泌と内分泌の違い、内分泌腺とホルモン				
	7	第5章 内分泌とホルモン 視床下部—下垂体—内分泌系の支配とフィードバックについて				
	8	第6章 泌尿器と体液調節 泌尿器を構成する臓器と位置、動物種と雌雄での差異、尿の生成と体液調節				
	9	第7章 脳と神経 脳 中枢神経系(脳と脊髄)、末梢神経系(体性神経系と自律神経系)について				
	10	第8章 運動器 骨と骨格筋、関節について				
	11	第9章 血液と造血器 血液の成分、血球の構造と機能、造血、血液凝固について				
	12	第10章 皮膚と感覚器 皮膚 ターンオーバー、表皮、真皮、皮下組織、皮膚の機能について				
	13	第10章 皮膚と感覚器 特殊感覚 視覚、聴覚				
	14	第10章 皮膚と感覚器 特殊感覚と深部感覚、内臓感覚 平衡感覚、嗅覚、味覚				
	15	まとめ ミクロとマクロ				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験 講義最終時間内に筆記試験(資料参照なし)を行う。				
	授業参加度の方法	小テスト、口頭あるいは板書での回答を求めた際の積極性、ディスカッションでの発言(内容については問いません)。				
使用教科書・教材		基礎動物看護学①動物形態機能学				
注意事項		飲料は可、食事、おやつは不可。授業内で確認時スマートフォンの使用可。				
関連科目		動物繁殖学、動物栄養学、比較動物学				
		講義事前課題	teamsの「ファイル」にアップしているpdfファイルに目を通す			
		講義事後課題	復習課題と次講義の課題を授業内で提示			

科目名		動物繁殖学		開講期	1年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	門田
科目概要		動物看護の現場では不妊手術が主で、出産に携わる機会は稀である。しかしながら、適切な繁殖により産まれた子犬猫を精神的にも健康面でも適切に発育させることで、愛玩動物との暮らしを長く健やかに暮らすことができる。父母の適切な飼養管理、交配、妊娠出産、授乳の一連の流れを理解し、新生子疾患や遺伝性疾患などを学びます。			
到達目標		自ら繁殖を行うと仮定して、どのようにすれば母子の健康を守り、遺伝性疾患を防ぎ、社会性をみにつけた犬猫を育てることができるか、想定問答ができるようになる。			
科目概要 授業計画	1	概要 人を含めて比較して学ぶ			
	2	泌尿生殖器:泌尿器系と生殖器系の共通するところ 雄性生殖器の解剖生理:精巣下降、精巣内細胞と性ホルモン、犬猫の副生殖腺の違い			
	3	雄性生殖器:外部生殖器 猫の交尾排卵 雌性生殖器			
	4	卵巣(卵胞⇒排卵⇒黄体⇒白体) 子宮内膜症 内膜炎 蓄膿症 性ホルモンと視床下部-下垂体系			
	5	視床下部の構造 オキシトシン(下垂体後葉ホルモン)およびその他関連するホルモン			
	6	交配適期 発情前期~発情期~発情後期~発情休止期			
	7	犬猫の交尾と雄 出産兆候と緊急対応および産後チェックポイント			
	8	受精と胚 胎盤と循環 動物種による胎盤の違い			
	9	膣スメア検査			
	10	妊娠鑑定 超音波診断とX線 妊娠期の食餌			
	11	帝王切開 不妊手術のメリットデメリット			
	12	薬物投与 分娩過程 介入 異常分娩(失位)			
	13	人工授精 新生子の特徴 初乳 新生子の環境			
	14	体重推移 母が育児をしない場合 近親交配 潜性遺伝			
	15	発生異常 遺伝性疾患 遺伝法則			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業における積極的態度 小テスト 提出物等			
使用教科書・教材		緑書房 愛玩動物看護師の教科書			
注意事項		お互いを尊重した授業態度			
関連科目		動物形態機能学			
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読		
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習		

科目名		動物行動学		開講期	1年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
					菊地	
科目概要		動物のさまざまな行動を理解し、適切に対応するための基礎知識を身に付ける				
到達目標		現場に活かせる行動学の基礎知識を習得し、実務に活かせるようになる。				
科目概要 授業計画	1	英国の人と伴侶動物の暮らし方について				
	2	動物行動学とは：基本概念、4つの質問				
	3	動物の維持行動：摂食行動、排泄行動、護身行動など				
	4	動物の社会と行動：群れの社会と行動、距離				
	5	学習理論Ⅰ：古典的条件付け、オペラント条件付け問題				
	6	学習理論Ⅱ：古典的条件付け、オペラント条件付け問題Ⅱ、報酬タイミング				
	7	学習理論Ⅲ：ルアートレーニング法、罰の使い方				
	8	学習理論Ⅴ：消去、消去バースト、シェイピング、チェイニング、系統的脱感作法と拮抗条件付け				
	9	犬猫の社会化：社会化とは、社会化の時期、社会化の仕方				
	10	犬のコミュニケーションⅠ：ボディランゲージ				
	11	犬のコミュニケーションⅡ：ボディランゲージ写真を見て読み取る				
	12	犬猫のエンリッチメント				
	13	問題行動とは、問題行動の種類、問題行動の治療とは				
	14	犬の問題行動の対処法				
	15	猫の問題行動の対処法				
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	30%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	小テスト、レポート提出				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻 緑書房				
注意事項						
関連科目						
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名		動物栄養学		開講期	2年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要		犬と猫の食性は異なり、ライフステージも長寿化しており、その疾病も多様化している。 ペットフードの製造過程を学びつつ、それぞれの健康状態に合わせた栄養指導は愛玩動物看護師に求められる重要な知識となっている。それらを学び、愛玩動物と飼い主を食を通じて結びつけることができる重要な機会となる。			
到達目標		各栄養素の特性を知り、犬猫の栄養要求に合わせた食餌の選択と飼い主へのアドバイスができるようになること。			
科目概要 授業計画	1	栄養学とは 6大栄養素			
	2	蛋白質について			
	3	炭水化物			
	4	脂質について			
	5	ビタミン			
	6	ミネラル			
	7	水			
	8	食性・嗜好性・摂食行動			
	9	栄養要求量とフードのカロリー数			
	10	ペットフードの知識①定義と種類、取り扱い			
	11	ペットフードの知識②ラベルの表示、選び方			
	12	犬猫に与えてはいけないもの・添加物について・間食とサプリメント			
	13	成長期の栄養管理			
	14	維持期の栄養管理			
	15	高齢期の栄養管理 <前期試験>			
評価	最終課題比率	90%	授業参加度	10%	出席
	最終課題の方法	筆記試験 期末の最終講義に実施します			
	授業参加度の方法	授業内容に関する積極的な質問、相談、発言を評価します			
使用教科書・教材		指定教科書(「愛玩動物看護師の教科書」緑書房)第二巻、プリント			
注意事項		飲料持ち込み可 スマートフォン・タブレット使用可 私語は控えてください			
関連科目		動物形態機能学			
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと		
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと		

科目名		動物栄養学		開講期	2年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
科目概要		犬と猫の食性は異なり、ライフステージも長寿化しており、その疾病も多様化している。ペットフードの製造過程を学びつつ、それぞれの健康状態に合わせた栄養指導は愛玩動物看護師に求められる重要な知識となっている。それらを学び、愛玩動物と飼い主を食を通じて結びつけることができる重要な機会となる。				
到達目標		基本栄養素の知識を基に、健康な生活を支える食餌管理の知識を修得し、減量や疾患時の栄養指導ができるようになること。				
科目概要 授業計画	1	担癌動物の食餌管理				
	2	心疾患の食餌管理				
	3	慢性腎疾患の食餌管理				
	4	肝疾患の食餌管理				
	5	関節炎の食餌管理				
	6	皮膚疾患の食餌管理① (栄養性皮膚疾患 アレルギーの機序と皮膚疾患の種類)				
	7	皮膚疾患の食餌管理② (アレルギー性皮膚疾患の食餌管理の実際)				
	8	尿路結石症の食餌管理				
	9	肥満の食餌管理				
	10	糖尿病の食餌管理				
	11	消化器疾患の食餌管理				
	12	ストレス時の食餌管理				
	13	栄養療法とは				
	14	経口強制給与・経腸栄養法				
	15	経静脈栄養法 <後期試験>				
評価	最終課題比率	90%	授業参加度	10%	出席	
	最終課題の方法	期末の最終講義に実施します				
	授業参加度の方法	授業内容に関する積極的な質問、相談、発言を評価します				
使用教科書・教材		指定教科書(「愛玩動物看護師の教科書」緑書房)第二巻、プリント				
注意事項		飲料持ち込み可 スマートフォン・タブレット使用可 私語は控えてください				
関連科目		動物機能形態学				
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと			
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと			

科目名		比較動物学		開講期	2年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
寺脇						
科目概要		授業の内容及び方法 野生動物および展示動物に対する考え方、接し方などを用いて動物看護への応用や将来就く仕事でも予備知識として使える考え方を学びます。				
到達目標		野生動物および展示動物の扱い、考え方の基礎知識を得て、実務に活かせるようになる。				
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション、分類、生物多様性				
	2	生物多様性、条約(ワシントン等)、種の保存法、絶滅危惧種 絶滅の原因(開発・外来生物)				
	3	絶滅の原因(温暖化・密猟・密輸・里地里山の変化)、絶滅危惧種の保全方法、鳥獣 害、管理対象になる野生動物(ニホンジカ、ニホンイノシシ)				
	4	管理対象になる野生動物(ニホンザル)、野生動物の増加要因、日本の野生動物に 対する管理の取り組み、外来生物				
	5	外来種の区分、外来生物による影響、外来生物の対策方法				
	6	展示動物(動物園のはじまり)				
	7	展示動物(環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニング、多様な展示法、逸出・ 侵入の防止)				
	8	展示動物(動物園における環境エンリッチメントの方法)				
	9	動物看護師と野生動物、人為的要因による傷病野生動物を救護する				
	10	野生動物救護の対象と内訳、救護されることが多い鳥の種類				
	11	哺乳類の救護事例、野生動物の病気と事故(交通事故・人工物への衝突)				
	12	哺乳類の救護事例、野生動物の病気と事故(虐待・密猟・釣り糸事故・罠・猫・中毒・ 感染症)				
	13	誤認保護(誘拐)、野生動物の救護体制				
	14	野生動物保護の都道府県ごとの体制、野生動物の生態を学ぶには、野生動物の福 祉、アニマルライツ				
	15	狩猟、商取引、毛皮等の問				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の 方法	授業中の小テストや質問に対する回答				
使用教科書・教材		スライド(大型プロジェクター)、黒板、教科書				
注意事項		飲み物は可 食べ物は不可				
関連科目						
		講義事前課題	教科書での予習と確認のための小テスト			
		講義事後課題	小テスト			

科目名		比較動物学		開講期	3年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	寺脇
科目概要		産業動物の家畜化の過程と現在の能力を解説する。適切な飼養管理と疾病から今日の問題点を考える。畜産業の現状を説明する。動物実験の必要性を解説し、適切な動物実験の遂行に不可欠な実験動物の選択、飼育管理や繁殖管理について学ぶ。			
到達目標		産業動物種ごとの特性を解説し、これらの動物が能力を十分に発揮できるように対応できる知識と技術の基礎を習得する。実験動物の取り扱いと管理(遺伝的コントロール、微生物学コントロール、環境コントロール)を動物福祉の観点に立つて行うことができる基礎的知識を獲得し、実務に活かせるようになる。			
科目概要 授業計画	1	・産業動物の定義と野生動物の家畜化による変化(体型や繁殖能力ならびに経済形質について)			
	2	・乳用牛の起源と品種の特徴 ・乳用牛にみられる”生産病”			
	3	・肉用牛、めん羊ならびに山羊の起源ならびに特徴 ・反芻動物の消化器に関する形態と機能			
	4	・豚の起源と品種の特徴 ・雑種強勢を利用した肉豚生産			
	5	・鶏の起源と品種の特徴 ・鶏の消化器の特徴と機能			
	6	・馬の起源と品種の特徴 ・季節繁殖のしくみ			
	7	・各種産業動物の歯式、消化ならびに生殖に関する機能の比較			
	8	・実験動物の紹介 ・動物を使った実験、試験ならびに実習の実例			
	9	・動物実験の目的と限界			
	10	・実験動物の定義 ・3R			
	11	・実験動物の遺伝学的コントロール			
	12	・実験動物の微生物学的コントロール			
	13	・実験動物の環境コントロール			
	14	・疾患モデル動物			
	15	・産業動物ならびに実験動物の器官や機能に関する比較 ・最終課題			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業中の小テストや質問に対する回答			
使用教科書・教材		スライド(大型プロジェクター)、黒板、教科書			
注意事項		飲み物は可 食べ物は不可			
関連科目					
		講義事前課題	教科書での予習と確認のための小テスト		
		講義事後課題	小テスト		

科目名	動物看護関連法規			開講期	3年前期
単位時間	15	コマ数	8	単位数	1
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	三浦
科目概要	動物看護に関する基本的な法規を学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。				
到達目標	法律・社会的規範を守ることができる動物医療関係者となる。				
科目概要 授業計画	1	法学総論			
	2	愛玩動物看護師法			
	3	愛玩動物看護師の業務			
	4	獣医療関連行政法規(獣医師法)			
	5	獣医療関連行政法規(獣医療法)			
	6	公衆衛生学行政法規(狂犬病予防法)			
	7	公衆衛生学行政法規(感染症新法)			
	8	薬事行政法規			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	指定の課題 最終発表			
	授業参加度の方法	講義時間内に、確認問題を配付する。適宜指名して解答してもらい、その後解答と解説を行う講義中の質疑等に加えて学修状況として評価の対象となる。			
使用教科書・教材	教科書、配布プリント等				
注意事項	飲料可。ただし、衛生上の注意を払うこと。スマホ使用可。				
関連科目	公衆衛生学				
	講義事前課題	teamsの「ファイル」にアップしているpdfファイルに目を通す			
	講義事後課題	復習課題と次講義の課題を授業内で提示			

科目名		動物愛護・適正飼養関連法規		開講期	3年後期	
単位時間		15	コマ数	8	単位数	1
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	三浦
科目概要		動物の愛護および適正指導に関する法律を学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。				
到達目標		人と動物の共生ある社会を構築する人材として基礎的な法律法規および規範を備えた人材となる。				
科目概要 授業計画	1	愛護・適正飼養の基本となる概念				
	2	愛護・適正飼養関連法規(動物の愛護及び管理に関する法律)				
	3	愛護・適正飼養関連法規(愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律)				
	4	社会福祉・環境衛生法規(身体障害者補助犬法)				
	5	社会福祉・環境衛生法規(廃棄物処理及び清掃に関する法律)				
	6	社会福祉・環境衛生法規(化製場等に関する法律)				
	7	野生動物等に関する法律				
	8	野生動物等に関する条約				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	指定の課題 最終発表				
	授業参加度の方法	講義時間内に、確認問題を配付する。適宜指名して解答してもらい、その後解答と解説を行う講義中の質疑等に加えて学修状況として評価の対象となる。				
使用教科書・教材		教科書、配布プリント等				
注意事項		飲料可。ただし、衛生上の注意を払うこと。スマホ使用可。				
関連科目		公衆衛生学				
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名	動物看護学概論			開講期	1年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	納谷
科目概要	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解する。				
到達目標	動物看護の基本となる概念と動物看護師の社会的立場を理解し、動物看護について考え探求する姿勢を習得する。				
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション			
	2	歴史上に見る獣医療の歴史、日本国内の獣医療の歴史、日本国内の動物看護師の歴史			
	3	愛玩動物看護師の職務範囲 動物病院			
	4	愛玩動物看護師の職務範囲 動物愛護および適正飼養分野			
	5	チーム獣医療、欧米の動物看護師と国内の動物看護師の相違			
	6	動物にとっての健康、福祉、QOL			
	7	動物看護の提供体制			
	8	愛玩動物看護師の社会的立場			
	9	獣医療倫理			
	10	動物看護師の倫理についてグループワーク(企画)			
	11	動物看護師の倫理についてグループワーク(役割分担)			
	12	動物看護師の倫理についてグループワーク(内容検討)			
	13	動物看護師の倫理についてグループワーク(実施に向けたリハーサル)			
	14	成果発表			
	15	定期試験実施			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業内容に関する質問や主体的な発言を評価します			
使用教科書・教材	愛玩動物看護師の教科書 第4巻 緑書房				
注意事項	スマートフォン、タブレット等使用OK 私語厳禁				
関連科目					
	講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
	講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名		動物病理学		開講期	1年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
					門田	
科目概要		<p>疾病の原因とその成り立ちを解明するのが病理学である。 病的状態は連続的なもので、健康な生理的状況から逸脱したものであり、その理解のためには形態機能学の理解が必須である。 「何が」変化して、「何の」形態と機能が変化し、「どのような」症状が現れるかの流れを理解し、その後の回復過程、維持過程および増悪過程を流れとして学び、疾病予防および臨床看護に活かす。</p>				
到達目標		健康な状態と病的状態の変化を専門用語を理解しながら、やさしい言葉で説明できるようにする。				
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション 形態機能学と病理学・薬理学 可逆と不可逆 剖検と病理組織検査				
	2	病因 内因 外因				
	3	代謝障害と変性 萎縮 壊死とアポトーシス				
	4	壊死とアポトーシス				
	5	細胞増殖 渉外に対する適応				
	6	創傷の分類と病的損傷				
	7	修復と再生				
	8	循環障害				
	9	ショック				
	10	炎症の定義・原因 炎症による形態的变化				
	11	炎症の分類 急性および慢性炎症				
	12	腫瘍の定義・原因・分類				
	13	腫瘍の種類				
	14	先天異常				
	15	生理と病理・ミクロとマクロ				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	授業における積極的態度 小テスト 提出物等				
使用教科書・教材		緑書房 愛玩動物看護師の教科書				
注意事項		お互いを尊重した授業態度				
関連科目		動物形態機能学				
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名		動物薬理学		開講期	2年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	大石
科目概要		使用される薬の意義や役割を正しく把握するための基礎知識を得たうえで、病態生理から見た薬の使われ方を学ぶ。実践問題として、各薬剤の動物種ごとの薬用量をしっかりと理解し、必要投与量を正確に計算できるようにする。			
到達目標		臨床薬を中心にその薬理作用、すなわち「どのように効果を発揮するのか」を説明ができるように、考察するための知識を身に付ける。			
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション(動物薬理学を学ぶにあたって)			
	2	第1章 『動物薬理学の基礎』	・薬理学とは		
	3	・医薬品に関する情報			
	4	・薬理作用と発現機構			
	5	・薬物動態(ADME)			
	6	・薬物の効果に影響を与える因子			
	7	第2章 『愛玩動物看護師による薬物の取り扱い』			
	8	・投薬量計算演習			
	9	・薬物の剤形			
	10	・投薬方法とその特徴	・薬物の取り扱い		
	11	第3章 『調剤法の基本』	・処方せんについて		
	12	・処方せんについて	・薬剤計算問題		
	13	・処方せんの読み方	・調剤の実際		
	14	・調剤する上での注意事項、 ・失敗しないために			
	15	試験範囲の総復習(医薬品基礎、投薬量計算、剤形、調剤) 筆記試験、 解答解説			
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	40%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	各章ごとにもうけた演習問題への取り組みや質問に対する回答。ディスカッションでの発言。			
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書第3巻(緑書房)、 各章ごとの授業プリント			
注意事項		飲料は可、食事は不可。授業内でのスマートフォンの使用可。			
関連科目		動物形態機能学、病理学			
		講義事前課題	教科書及び授業プリントの関連部分を熟読		
		講義事後課題	復習課題と次講義の課題を授業内で提示		

科目名	動物薬理学			開講期	2年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	大石
科目概要	<p>医薬品が身近なものになりつつある現在、薬の薬理作用やその体内動態を学ぶことは重要である。 この科目では2年前期において学習した薬理学の基礎知識を踏まえて、さらに進んだ各論を学ぶ。 その際、関連する疾患・治療について概要をつかみ、具体的な個々の薬物について、薬物の使用目的や作用などのついで理解を深めることに留意する。</p>				
到達目標	<p>国家試験も視野に入れ、使用する薬物の作用や副作用、注意点を理解し、投与する際の薬物の作用を十分に引き出すことのできる動物看護師となることを目指す。</p>				
科目概要 授業計画	1	第4章 『神経系に作用する薬物』 ・自律神経作用薬 ・全身・局所麻酔薬 ・鎮痛薬			
	2	第4章 『神経系に作用する薬物』 ・筋弛緩薬 ・鎮静薬、抗てんかん薬(抗痙攣薬) ・問題行動の治療に用いられる薬物			
	3	第5章 『呼吸器系に作用する薬物』 ・呼吸興奮薬			
	4	第5章 『呼吸器系に作用する薬物』 ・鎮咳薬 ・気管支拡張薬			
	5	第6章 『循環器及び泌尿器に作用する薬物』 ・心臓病における薬物治療			
	6	第6章 『循環器及び泌尿器に作用する薬物』 ・心不全の病態生理 ・心疾患治療薬の種類と特徴			
	7	第7章 『消化器系に作用する薬物』 ・嘔吐、下痢に対して使用する薬			
	8	第7章 『消化器系に作用する薬物』 ・便秘に対して使用する薬 ・肝疾患に使用する薬 ・酵素製剤			
	9	第8章 『オータコイド、代謝・内分泌系の薬物』 ・オータコイド ・糖尿病治療薬			
	10	第8章 『オータコイド、代謝・内分泌系の薬物』 ・甲状腺ホルモン製剤 ・性ステロイド ・副腎皮質ホルモン剤			
	11	第9章 『血液、免疫系に作用する薬物』 ・抗貧血薬 ・血液凝固促進薬(止血薬)			
	12	第9章 『血液、免疫系に作用する薬物』 ・非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs) ・免疫抑制薬 ・分子標的薬			
	13	第10章 『化学療法剤』 ・抗菌薬			
	14	第10章 『化学療法剤』 ・抗真菌薬 ・駆虫薬 ・抗がん剤			
	15	試験範囲の総復習(医薬品各論、各医薬品の特徴のまとめ) 臨床動物看護師への応用、筆記試験、解答解説			
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	40%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	各章ごとにもらった演習問題への取り組みや質問に対する回答。ディスカッションでの発言。			
使用教科書・教材	愛玩動物看護師の教科書第3巻(緑書房)、 各章ごとの授業プリント				
注意事項	飲料は可、食事は不可。授業内でのスマートフォンの使用可。				
関連科目	動物形態機能学、病理学				
	講義事前課題	教科書及び授業プリントの関連部分を熟読			
	講義事後課題	復習課題と次講義の課題を授業内で提示			

科目名		動物感染症学		開講期	1年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	門田
科目概要		感染症は一時的爆発的に広がることもあれば、常に身近に潜み、時には共存している場合もある。その本質は「宿主・病原体・環境との関わり」ともいえる。単に恐れるだけではなく、正しい知識、症状、ワクチンプログラムを含む予防法、検査法を学び、適切に対応できる知識と基本的技術を学ぶ。			
到達目標		病原体の分類とその特徴を理解し、基本的な感染経路を理解する。 病原体とその症状を理解する。 その特徴を説明できるようになる。			
科目概要 授業計画	1	感染症の成立(感染源・感染経路・感受性宿主) 暴露・感染・潜伏期・顕性感染と不顕性感染・キャリア			
	2	水平感染 垂直感染 日和見感染 微生物の種類			
	3	ウイルス			
	4	細菌 真菌			
	5	原虫 寄生虫 プリオン			
	6	呼吸器疾患:猫カリシウイルス感染症・猫ヘルペスウイルス感染症			
	7	呼吸器疾患:猫クラミジア 気管支炎・肺炎・膿胸・気胸			
	8	犬呼吸器感染症 根尖膿瘍			
	9	犬パルボウイルス感染症			
	10	犬レプトスピラ感染症 腎盂腎炎・尿路結石症・感染性膀胱炎			
	11	犬ブルセラ感染症 子宮蓄膿症 乳腺炎			
	12	膿皮症 外耳炎 マラセチア皮膚炎 皮膚糸状菌症			
	13	血液感染症 ヘモプラズマ症			
	14	猫伝染性腹膜炎 猫白血病ウイルス感染症			
	15	猫免疫不全ウイルス感染症 ワクチンプログラム			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業における積極的態 度 小テスト 提出物等			
使用教科書・教材		緑書房 愛玩動物看護師の教科書			
注意事項		お互いを尊重した授業態度			
関連科目		動物形態機能学 動物内科看護学 動物薬理学 動物病理学			
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読		
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習		

科目名		動物感染症学		開講期	2年前期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
					門田	
科目概要		感染症は一時的爆発的に広がることもあれば、常に身近に潜み、時には共存している場合もある。その本質は「宿主・病原体・環境との関わり」ともいえる。単に恐れるだけではなく、正しい知識、症状、ワクチンプログラムを含む予防法、検査法を学び、適切に対応できる知識と基本的技術を学ぶ。				
到達目標		病原体の分類とその特徴を理解し、基本的な感染経路を理解する。 病原体とその症状を理解する。 その特徴を説明できるようになる。				
科目概要 授業計画	1	寄生 共生 片利寄生				
	2	動物寄生虫学概論				
	3	外部寄生虫				
	4	昆虫 クモダニ				
	5	ノミ シラミ ニキビタダニ				
	6	疥癬				
	7	内部寄生虫				
	8	鉤虫 鞭虫				
	9	犬糸状虫				
	10	瓜実条虫 多包条虫 マンソン裂頭条虫				
	11	原虫病:イソスポラ アイメリア ジアルジア				
	12	原虫病:トキソプラズマ				
	13	原虫病:バベシア				
	14	消毒法				
	15	滅菌法				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	授業における積極的態 度 小テスト 提出物等				
使用教科書・教材		緑書房 愛玩動物看護師の教科書				
注意事項		お互いを尊重した授業態度				
関連科目		動物形態機能学 動物内科看護学 動物薬理学 動物病理学				
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名		動物感染症学		開講期	2年後期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	門田	
科目概要		感染症は一時的爆発的に広がることもあれば、常に身近に潜み、時には共存している場合もある。その本質は「宿主・病原体・環境との関わり」ともいえる。単に恐れるだけではなく、正しい知識、症状、ワクチンプログラムを含む予防法、検査法を学び、適切に対応できる知識と基本的技術を学ぶ。				
到達目標		免疫学の基本を理解し、説明ができる。 アレルギーの基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。 ワクチン接種プログラムを説明できるようになる。 基本的な細菌に関する実技・検査ができるようになる。				
科目概要 授業計画	1	免疫学の基礎と応用 事前応答免疫と獲得免疫				
	2	液性免疫・細胞性免疫				
	3	免疫不全				
	4	自己免疫疾患				
	5	アレルギー I型				
	6	アレルギー II型 III型 IV型				
	7	自己免疫疾患				
	8	ワクチン				
	9	微生物検査: 培地作成				
	10	微生物検査: 培養				
	11	微生物検査: 画線培養				
	12	微生物検査: 選択培地				
	13	微生物検査: コンラージ				
	14	微生物検査: グラム染色				
	15	微生物検査: 薬剤感受性試験				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	授業における積極的態 小テスト 提出物等				
使用教科書・教材		緑書房 愛玩動物看護師の教科書				
注意事項		お互いを尊重した授業態度				
関連科目		動物形態機能学 動物内科看護学 動物薬理学 動物病理学				
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名	公衆衛生学			開講期	3年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	三浦
科目概要	公衆衛生行政に関わった経験を生かし、疫学、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生について解説します。				
到達目標	公衆衛生の知識を身につけることで、人の健康の維持増進や疾病予防へ応用できるようになります。				
科目概要 授業計画	1	第1章 公衆衛生	公衆衛生の目的、人口統計		
	2	第1章 公衆衛生	公衆衛生の分野		
	3	第2章 疾病と疾病予防	感染管理		
	4	第2章 疾病と疾病予防	感染対策		
	5	第2章 疾病と疾病予防	感染源		
	6	第2章 疾病と疾病予防	感染経路		
	7	第2章 疾病と疾病予防	感受性宿主		
	8	第2章 疾病と疾病予防	薬剤耐性菌		
	9	第2章 疾病と疾病予防	バイオハザード、バイオセーフティ、バイオセキュリティ		
	10	第2章 疾病と疾病予防	疫学：指標、疫学研究		
	11	第2章 疾病と疾病予防	スクリーニング、サーベイランス、感染症の疫学		
	12	第2章 疾病と疾病予防	人獣共通感染症：細菌性		
	13	第2章 疾病と疾病予防	人獣共通感染症：ウイルス性		
	14	第2章 疾病と疾病予防	人獣共通感染症：鳥類から、その他		
	15	愛玩動物看護師における実務と公衆衛生 これまでの理解度の確認と試験、解答・解説			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	小テスト、口頭あるいは板書での回答を求めた際の積極性、ディスカッションでの発言（内容については問いません）。			
使用教科書・教材	基礎動物看護学①動物形態機能学				
注意事項	飲料は可、食事、おやつは不可。授業内でスマートフォンの使用可。				
関連科目	動物看護関連法規、動物感染症学				
	講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
	講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名	公衆衛生学			開講期	3年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	三浦
科目概要	公衆衛生行政に関わった経験を生かし、疫学、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生について解説します。				
到達目標	公衆衛生の知識を身につけることで、人の健康の維持増進や疾病予防へ応用できるようになります。				
科目概要 授業計画	1	第3章 環境衛生	地球環境問題		
	2	第3章 環境衛生	地球環境問題、公害		
	3	第3章 環境衛生	地球環境問題、水		
	4	第3章 環境衛生	地球環境問題、大気、土壌		
	5	第3章 環境衛生	放射線、悪臭、騒音		
	6	第3章 環境衛生	廃棄物：一般廃棄物		
	7	第3章 環境衛生	廃棄物：産業廃棄物、感染性廃棄物		
	8	第3章 環境衛生	医療関連感染		
	9	第3章 環境衛生	衛生動物		
	10	第4章 食品衛生	食品衛生、食品の品質		
	11	第4章 食品衛生	食中毒：細菌性・ウイルス性		
	12	第4章 食品衛生	食中毒：寄生虫・自然毒・化学性食中毒		
	13	第4章 食品衛生	食物アレルギー		
	14	第4章 食品衛生	食品衛生管理手法		
	15	愛玩動物看護師における実務と公衆衛生 これまでの理解度の確認と試験、解答・解説			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	レポート			
	授業参加度の方法	小テスト、口頭あるいは板書での回答を求めた際の積極性、ディスカッションでの発言（内容については問いません）。			
使用教科書・教材	基礎動物看護学①動物形態機能学				
注意事項	飲料は可、食事、おやつは不可。授業内でスマートフォンの使用可。				
関連科目	動物看護関連法規、動物感染症学				
	講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
	講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名		動物内科看護学		開講期	1年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要		動物医療現場における内科診療に伴う診察補助、検査・処置、投薬の概要と、動物看護師として要求される技術に関する知識を学ぶ			
到達目標		実際の医療現場において動物看護業務に求められる技術を理解し、理論的裏付けのある看護を提供できる基礎知識を身につけること			
科目概要 授業計画	1	第一章 健康の保持・増進:健康診断の意義 身体検査・尿検査・検便			
	2	第一章 健康の保持・増進:血液検査・胸部検査・腹部検査・遺伝子検査			
	3	第二章 診療補助に必要な技術:動物看護師の役割・診察室の準備と衛生管理			
	4	第二章 診療補助に必要な技術:動物種ごとの適切な接し方			
	5	第二章 診療補助に必要な技術:動物の保定法 保定の定義・動物の知覚と行動			
	6	第二章 診療補助に必要な技術:動物の保定法 犬と猫の捕獲と保定			
	7	第二章 診療補助に必要な技術:全身状態の確認			
	8	第二章 診療補助に必要な技術:バイタルサイン 意識レベル・体温・心拍			
	9	第二章 診療補助に必要な技術:バイタルサイン 呼吸・脈拍・頸動脈拍動・可視粘膜・尿量・血圧			
	10	第二章 診療補助に必要な技術:聴診法			
	11	第二章 診療補助に必要な技術:各器官系の評価・子犬と子猫の全身評価			
	12	第三章 検査・処置に必要な技術:注射・採尿			
	13	第三章 検査・処置に必要な技術:穿刺と吸引・酸素吸入・マイクロチップ			
	14	第四章 投薬に関わる技術:薬の処方・経口投与・外用薬と薬浴			
	15	第四章 投薬に関わる技術:投薬における留意点 <前期試験>			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業内容に関する質問や主体的な発言を評価します			
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻 緑書房			
注意事項		スマートフォン、タブレット等使用OK 私語厳禁			
関連科目		動物内科看護学実習			
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと		
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと		

科目名		動物内科看護学		開講期	1年後期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田	
科目概要		動物医療現場における内科診療に伴う診察補助、検査・処置、投薬の概要と、動物看護師として要求される技術に関する知識を学ぶ				
到達目標		実際の医療現場において動物看護業務に求められる技術を理解し、理論的裏付けのある看護を提供できる基礎知識を身につけること				
科目概要 授業計画	1	第5章 採血と注射				
	2	第6章 輸液 : 輸液の基礎知識・準備・輸液量の決定				
	3	輸液の実施手順・注意点				
	4	第7章 輸血 : 輸血の目的・計画・血液型について□				
	5	輸血の実施手順・輸血中の看護□				
	6	第8章 心電図・血圧 : ①心電図検査の流れ				
	7	②心電図の読み方				
	8	③血圧測定				
	9	第9章 画像診断 : ①X線装置と放射線防護				
	10	②X線検査の予備知識・ポジショニングと保定				
	11	③造影X線検査・現像				
	12	④CTとMRI : 違いと原理、注意点				
	13	第10章 超音波検査 : エコーとは 超音波画像診断の原理				
	14	超音波診断装置の基礎知識				
	15	エコー検査の手順と各臓器の正常像 <後期試験>				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	講義に関連した質問や相談、発言など、主体的な姿勢を評価します				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻				
注意事項		スマートフォン、タブレット等使用可 私語は控えてください				
関連科目		動物内科看護学実習				
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと			
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと			

科目名		動物内科看護学		開講期	2年前期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田	
科目概要		動物医療現場における内科診療に伴う診察補助、検査・処置、投薬の概要と、動物看護師として要求される技術に関する知識を学ぶ				
到達目標		実際の医療現場において動物看護業務に求められる技術を理解し、理論的裏付けのある看護を提供できる基礎知識を身につく				
科目概要 授業計画	1	第11章 内視鏡検査				
	2	第12章 各器官系の検査 1, 循環器系				
	3	2, 呼吸器系				
	4	3, 口腔系				
	5	4, 消化器系				
	6	5, 腎泌尿器系				
	7	6, 内分泌系				
	8	7, 生殖器系				
	9	8, 運動器系				
	10	9, 神経学的検査				
	11	10, 眼科検査				
	12	11, 皮膚および外耳検査				
	13	12, アレルギー・免疫系の検査				
	14	13, 血液・造血系の検査: 視診・触診・血液検査・FNA・生検				
	15	13, 血液・造血系の検査: 免疫染色・PCR・凝固系検査・骨髓検査 <後期試験>				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	講義に関連した質問や相談、発言など、主体的な姿勢を評価します				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻				
注意事項		スマートフォン、タブレット等使用可 私語は控えてください				
関連科目		動物内科看護学実習				
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと			
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと			

科目名		動物外科看護学		開講期	2年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要		外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。			
到達目標		術前から術後に行う動物に対する検査や処置、麻酔そして手術に使用する器具機械について理解する。また術前検査、手術準備、術中のモニタリングと術後動物の看護に重点を置き、様々な状況に対応できる愛玩動物看護師を目指します。			
科目概要 授業計画	1	手洗い 手の拭き方 術着手術用手袋の装着			
	2	手術器具機材			
	3	縫合材料と縫合法			
	4	毛刈り消毒			
	5	麻酔に使用する薬剤①			
	6	気管挿管の準備			
	7	麻酔器			
	8	術中モニター			
	9	心電図について			
	10	術前準備			
	11	各係の手術までの流れ			
	12	術前検査			
	13	麻酔に使用する薬剤②			
	14	創傷管理 骨折と脱臼			
	15	各手順のつながりと目的 安全な手順			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	小テスト 授業態度 積極的な姿勢			
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻 プリント			
注意事項		スマートフォンは授業中使用禁止(講師の指示のあったときのみ可)			
関連科目		動物外科看護学			
		講義事前課題	講義内容に該当する教科書を通読すること		
		講義事後課題	講義で学んだことを念頭に置きつつ実技に臨むこと		

科目名		動物外科看護学		開講期	3年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要		外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得する。			
到達目標		術前から術後に行う動物に対する検査や処置、麻酔、手術、使用する器具機械を理解する。また飼い主さんへの説明気遣いができるようになる。			
科目概要 授業計画	1	手洗い、手の拭き方、術着手術用手袋の装着			
	2	気管挿管の使い方			
	3	麻酔器の使い方			
	4	毛刈り消毒			
	5	全身麻酔(注射、吸入)と局所麻酔、滅菌と消毒			
	6	術前検査(CBC、血液生化学)			
	7	術前検査(血液生化学、レントゲンエコー)			
	8	外科器具			
	9	縫合材料と縫合法			
	10	歯科学、歯石除去			
	11	術中麻酔モニター			
	12	麻酔に使う薬			
	13	術前準備			
	14	生殖器科、創傷管理、ドレーニ、骨折			
	15	安全な手順 飼い主への説明			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業中の積極的な姿勢(こちらからの質問に対する回答など)小テスト			
使用教科書・教材		緑書房			
注意事項					
関連科目		動物外科看護学			
		講義事前課題	講義内容に該当する教科書を通読すること		
		講義事後課題	講義で学んだことを念頭に置きつつ実技に臨むこと		

科目名		動物臨床看護学総論		開講期	2年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要		動物看護過程と動物看護記録とは何か、その必要性を学び、様々な状況における動物看護に関する知識を学ぶ			
到達目標		動物看護過程とは何かを理解し、動物看護において動物看護過程に即した思考ができる基礎知識を身につけること。さらに様々な状況における動物看護で必要とされる基本的な知識を身につけること。			
科目概要 授業計画	1	動物看護業務 看護とは			
	2	動物看護過程:アセスメントと看護診断			
	3	動物看護過程:看護計画、看護実践、看護評価とフィードバック			
	4	診療記録と看護記録			
	5	入院動物の看護:準備、受け入れ、環境整備			
	6	入院動物の看護:観察、食餌管理、ケア、退院			
	7	若齢動物の看護			
	8	高齢動物の看護:一般的なケアのポイント			
	9	高齢動物の看護:入院、預かり、家庭におけるアドバイス			
	10	在宅医療:在宅医療とは、サポートの必要性			
	11	在宅医療:採択医療の実際、投薬、食餌、酸素療法			
	12	終末期:ターミナルケアとは			
	13	ターミナル期の看護、飼い主へのサポート			
	14	ホスピスケア、看取り、グリーフケア、エンゼルケア			
	15	動物看護過程の展開の実際 <後期試験>			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業内容に関する主体的な質問、意見を評価します			
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第5巻 緑書房			
注意事項		スマートフォン、タブレット等使用OK 私語厳禁			
関連科目		動物内科看護学 動物外科看護学			
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと		
		講義事後課題	講義時に配布したプリント、板書内容と教科書を照会して目を通すこと		

科目名	動物臨床看護学各論			開講期	3年前期
単位時間	60	コマ数	30	単位数	4
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要	代表的な徴候・疾患について、教科書に沿ってそれらの病態生理、臨床像を学び、そこから導かれる提供すべき看護介入を学ぶ。				
到達目標	常に動物看護過程の展開を念頭に置きながら各疾患の動物に必要な看護をぬかりなく提供し、飼い主にも配慮できる知識を身につけること。				
科目概要 授業計画	1	第一章 徴候や疾患の理解と対処 代表的な臨床徴候:全身徴候			
	2	第二章 代表的な臨床徴候:特異的徴候① 運動不耐性・発咳・心雑音			
	3	特異的徴候③ 不整脈・高血圧・努力呼吸・流涎・嘔吐・吐出・下痢・便秘			
	4	特異的徴候④ 血便・黄疸・下部尿路徴候			
	5	特異的徴候④ 多飲多尿・跛行・搔痒・発作			
	6	特異的徴候⑤ 視覚障害・難聴・眼振・斜頸捻転・貧血・出血傾向			
	7	特異的病態			
	8	第三章 代表的な疾患::循環器疾患① 先天性心血管異常			
	9	循環器疾患② 後天的循環器疾患			
	10	呼吸器疾患			
	11	口腔疾患			
	12	消化器疾患			
	13	腎泌尿器疾患			
	14	内分泌疾患			
	15	生殖器疾患 <前期試験>			
評価	最終課題比率	20%	授業参加度	80%	出席
	最終課題の方法	レポート 事前に周知する課題に関するレポートを期日までに提出すること			
	授業参加度の方法	一つのテーマが終わるごとに次回の講義の初めに小テストを実施し、その点数の累積を評価点に加算する			
	使用教科書・教材	指定教科書(EDUWARD Press出版)9巻「動物臨床看護学総論・動物臨床看護学各論」			
	注意事項	飲料持ち込み可、スマートフォン・タブレット使用可 私語は控えてください			
	関連科目	動物形態機能学 動物臨床看護学総論 動物臨床看護学実習			
		講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと		
		講義事後課題	授業内容と教科書を照会して、自分が理解できていない箇所を把握すること		

科目名	動物臨床看護学各論			開講期	3年後期
単位時間	60	コマ数	30	単位数	4
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要	代表的な徴候・疾患について、教科書に沿ってそれらの病態生理、臨床像を学び、そこから導かれる提供すべき看護介入を学ぶ。				
到達目標	常に動物看護過程の展開を念頭に置きながら各疾患の動物に必要な看護をぬかりなく提供し、飼い主にも配慮できるための基礎知識を身につけること。				
科目概要 授業計画	1	整形外科疾患① 関節炎・骨折			
	2	整形外科疾患② 関節の器質的疾患・骨肉腫			
	3	神経疾患 眼疾患			
	4	皮膚疾患① 皮膚感染症			
	5	皮膚疾患② アレルギー、免疫介在性皮膚疾患			
	6	自己免疫性疾患			
	7	血液・造血系疾患			
	8	第4章 救急疾患とその対応 ①中毒			
	9	②誤飲・誤食・交通事故・外傷・熱中症・熱傷・溺水・感電			
	10	③眼科疾患・循環器疾患・内分泌疾患・神経疾患・呼吸困難・ショック・アナフィラキシー			
	11	第5章 機能別障害で見る動物看護の視点 ①口腔系・感覚器系・外皮系・循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系・生殖器系			
	12	②神経系・運動器系・アレルギー、免疫系・血液、造血器系・事例に即した考え方			
	13	第6章 担がん動物の看護 ①がんとは・良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴			
	14	②診断的アプローチ・治療の選択・がん治療中の動物看護			
	15	③腫瘍随伴症候群・ターミナルケアについて <後期試験>			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業内容に関連した主体的な質問や意見を評価します			
使用教科書・教材	指定教科書(EDUWARD Press出版)9巻「動物臨床看護学総論・動物臨床看護学各論」				
注意事項	スマートフォン、タブレット等使用OK 私語厳禁				
関連科目	動物形態機能学 動物臨床看護学総論 動物臨床看護学実習				
	講義事前課題	教科書の該当部分を通読しておくこと			
	講義事後課題	授業内容と教科書を照会して、自分が理解できていない箇所を把握すること			

科目名		動物臨床検査学		開講期	2年
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要		様々な臨床検査の原理や方法 意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。			
到達目標		主に一般動物病院で行なわれていると思われる臨床検査を一通り学びます。それを理解してチーム獣医療の一員としての仕事を十分にこなせるようにします。			
科目概要 授業計画	1	血液検査(CBC)血液塗抹標本			
	2	凝固系検査			
	3	血液生化学検査			
	4	血液生化学検査			
	5	臨床検査の基礎			
	6	心電図			
	7	心電図と血圧			
	8	レントゲン検査			
	9	超音波エコー検査			
	10	皮膚と耳			
	11	皮膚と耳			
	12	内視鏡 眼科検査			
	13	細胞診			
	14	神経学的検査			
	15	遺伝子検査			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業中の積極的な姿勢(質問に対する回答など)小テスト			
使用教科書・教材					
注意事項					
関連科目		動物内科看護学			
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読		
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習		

科目名	動物医療コミュニケーション		開講期	2年前期		
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1	
授業形態	演習	科目区分	必修	担当講師	納谷	
科目概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解し、動物医療に関する飼い主への説明スキルアップを目指します。					
到達目標	動物医療業務に必要なコミュニケーションの概念を理解する。					
科目概要 授業計画	1	コミュニケーションとは				
	2	動物医療者としてのコミュニケーション				
	3	クライアントエデュケーションについて				
	4	疾病予防についての対応①				
	5	疾病予防についての対応②				
	6	薬の説明				
	7	健康管理				
	8	院内コミュニケーションと動物病院マネジメント①				
	9	院内コミュニケーションと動物病院マネジメント②				
	10	電話対応①				
	11	電話対応②				
	12	クレーム時の対応①				
	13	クレーム時の対応②				
	14	予備				
	15	試験				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	小テストにて理解度を確認します				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目						

科目名		愛玩動物学		開講期	1年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中山
科目概要		愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理法について理解する。			
到達目標		犬や猫の品種的特徴を理解し看護できるようになる。飼い主に適切に飼育管理してもらえるよう学ぶ。			
科目概要 授業計画	1	犬の歴史			
	2	犬の品種 犬種グループごとの犬の特徴①(JKC1～3G)			
	3	犬の品種 犬種グループごとの犬の特徴②(JKC4～6G)			
	4	犬の品種 犬種グループごとの犬の特徴③(JKC7～9G)			
	5	使役犬			
	6	補助犬			
	7	猫の歴史			
	8	猫の品種①(短毛種)			
	9	猫の品種②(長毛種)			
	10	犬の適切な飼養管理方法			
	11	猫の適切な飼養管理方法			
	12	健康管理(散歩、グルーミング、健康チェック)			
	13	犬のストレスの緩和方法について			
	14	猫のストレス緩和方法について			
	15	血統と血統書について			
評価	最終課題比率	70%	授業参加度	30%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	小テスト、授業参加度、出席率状況			
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書6巻			
注意事項					
関連科目					
		講義事前課題 講義内容に該当する教科書を通読する			
		講義事後課題 授業毎に渡す復習プリントにしっかり取り組むこと			

科目名		愛玩動物学		開講期	2年後期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中山
科目概要		授業の内容及び方法 エキゾチックアニマルの形態、生態、行動等知識や、動物の感染症の考え方をを用いて、将来就く仕事でも予備知識として使える考え方を学びます。			
到達目標		エキゾチックアニマルの基礎知識を得て、より良い扱いで接することができるようになる。			
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション、愛玩鳥①(生態・身体的特徴)			
	2	愛玩鳥②(身体的特徴・解剖生理学的特徴・飼育環境・日々の管理)			
	3	愛玩鳥③(臨床ポイント・保定・各種検査)			
	4	愛玩鳥④(投薬、主な疾病:マクロラブダス症・内部寄生虫感染症・オウム類嘴羽病・ヒナ病・オウム病・重金属中毒・卵塞・肝臓疾患・痛風)			
	5	ウサギ①(背景と主な品種・生態・性格)			
	6	ウサギ②(繁殖、身体的特徴、解剖的特徴、飼育環境)			
	7	ウサギ③(飼育環境・日々の管理・保定・検査・投薬・強制給餌・歯牙疾患・スナッフ)			
	8	ウサギ④(各疾患等) フェレット①(生態・身体的特徴)			
	9	フェレット②(身体的特徴・解剖学的特徴・飼育環境・日々の管理・臨床ポイント)			
	10	フェレット③(画像検査・予防・主な疾病)			
	11	フェレット④(主な疾病) ハムスター①(生態・繁殖・身体的特徴・解剖生理学的特徴・飼育環境)			
	12	ハムスター②(餌・水・日々の管理・臨床ポイント)			
	13	ハムスター③(主な疾病) カメ①(生態・身体的特徴・解剖生理学的特徴・飼育環境)			
	14	カメ②(飼育環境・管理・臨床ポイント)			
	15	カメ③(主な疾病)			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業中の小テストや質問に対する回答			
使用教科書・教材		スライド(大型プロジェクター)、黒板、教科書			
注意事項		飲み物は可 食べ物は不可			
関連科目					
		講義事前課題 教科書での予習と確認のための小テスト			
		講義事後課題 小テスト			

科目名	人と動物の関係学			開講期	1年後期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	今木	
科目概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。					
到達目標	人間と動物の関わり、福祉や動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育に関して説明できるようになる。					
科目概要 授業計画	1	人と動物の関わりの歴史 欧米の動物観 古代～中世				
	2	人と動物の関わりの歴史 欧米の動物観 近代～現代				
	3	人と動物の関わりの歴史 日本の動物観 古代～中世				
	4	人と動物の関わりの歴史 日本の動物観 近代～現代				
	5	人と動物の関わりの歴史 欧米と日本の動物観の違い				
	6	動物介在介入とは何か 動物介在介入、動物介在療法、動物介在活動、動物介在教育				
	7	動物介在介入の歴史 乗馬療法、盲導犬、精神疾患患者への動物の導入				
	8	動物が人へもたらす効果 身体的及び生理的效果				
	9	動物が人へもたらす効果 心理的效果				
	10	動物が人へもたらす効果 社会的効果				
	11	動物介在介入プログラム 施設訪問型、施設飼育型				
	12	動物介在介入プログラム 在宅訪問型、在宅飼育型、屋外活動型				
	13	人の福祉と愛玩動物のかかわり 児童虐待、動物虐待、動物虐待の背景				
	14	人の福祉と愛玩動物のかかわり 多頭飼育崩壊(アニマルホーディング)				
	15	ヒューマンアニマルボンドの現在と未来 ふりかえり、国家試験問題の傾向と対策、筆記試験				
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	25%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	授業中の受け答え、レポート、質疑応答などで評価します。				
使用教科書・教材	愛玩動物看護師教科書 第6巻 緑書房					
注意事項	飲み物は可。食べ物等は不可。授業中のパソコン、スマートフォンの使用は可。					
関連科目	生命倫理・動物福祉、動物行動学、動物愛護・適正飼養関連法規					
	講義事前課題	講義に関連する教科書を読み込んでおくこと				
	講義事後課題	講義の内容に関連するニュース等に目を向け反芻していくこと				

科目名	適正飼育指導論			開講期	1年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中山
科目概要	愛玩動物の効用や使用目的を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	動物看護を学んでいく上で必要になる適切な動物の飼養について理解し、説明できるようになる。				
科目概要 授業計画	1	人と犬の関係			
	2	人と猫、エキゾチックアニマルの関係			
	3	愛玩動物飼養① 適正飼養の目的と概念について			
	4	愛玩動物飼養② 愛玩動物飼養の現状について			
	5	愛玩動物飼養③ 人間が受ける影響と問題点について			
	6	愛玩動物飼養④ 飼養のニーズや目的			
	7	愛玩動物飼養⑤ グリーフケアの理解と支援			
	8	愛玩動物飼養⑥ ペットロスの理解と支援			
	9	愛玩動物飼養総括			
	10	適正飼養① 支援の目的と活動			
	11	適正飼養② 動物取扱業適正飼養について			
	12	適正飼養③ 動物取扱業過剰繁殖の問題点とその対策			
	13	適正飼養④ 犬の問題行動予防のための適正な飼育方法			
	14	適正飼養⑤ 猫の問題行動予防のための適正な飼育方法			
	15	適正飼育総括			
評価	最終課題比率	70%	授業参加度	30%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	小テスト、授業参加度、出席率状況			
使用教科書・教材	愛玩動物看護師の教科書6巻				
注意事項					
関連科目					
	講義事前課題	講義内容に該当する教科書を通読する			
	講義事後課題	授業毎に渡す復習プリントにしっかり取り組むこと			

科目名	適正飼育指導論			開講期	2年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中山
科目概要	愛玩動物の効用や使用目的を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	動物看護を学んでいく上で必要になる適切な動物の飼養について理解し、説明できるようになる。				
科目概要 授業計画	1	愛玩動物飼養① 適正飼養の目的と概念について理解する			
	2	愛玩動物飼養② 人間が受ける影響と問題点について理解する			
	3	愛玩動物飼養③ グリーフケア、ペットロスの理解と支援			
	4	適正飼養① 支援の目的と活動			
	5	動物取扱業① 適正飼養について			
	6	動物取扱業② 過剰繁殖の問題点とその対策			
	7	問題行動予防① 適切な飼育方法を理解する			
	8	問題行動予防② 適切なしつけについて			
	9	問題行動予防③ 適切なしつけについて			
	10	災害危機管理① 同行避難の重要性			
	11	災害危機管理② 愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて、看護師の役割			
	12	動物愛護管理行政① 公衆衛生業務における動物看護師の役割			
	13	動物愛護管理行政② 動物愛護週間について			
	14	動物愛護管理行政③ 犬、猫の引き取り、収容施設について			
	15	動物愛護管理行政④ 動物愛護管理センターについて			
評価	最終課題比率	70%	授業参加度	30%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	授業態度、提出物の内容、出席率状況			
使用教科書・教材	愛玩動物看護師の教科書6巻				
注意事項					
関連科目					
	講義事前課題 講義内容に該当する教科書を通読する				
	講義事後課題 授業毎に渡す復習プリントにしっかり取り組むこと				

科目名		動物生活環境学		開講期	3年前期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
					今木	
科目概要		人と愛玩動物の共生のための生活環境のあり方を踏まえた愛玩動物の飼養環境整備について学ぶ。				
到達目標		愛玩動物に快適な生活を提供するためには、愛玩動物の生育環境やその特性を知ることが大切となる。動物福祉の「5つの自由」を基にした動物行動学を踏まえた様々な飼養環境整備の必要性やその方法について理解する。				
科目概要 授業計画	1	動物福祉「5つの自由」				
	2	飼養環境整備の必要性と方法				
	3	飼養環境整備における注意点				
	4	ペットツーリズムの現状と実施方法				
	5	ペットツーリズム関連施設				
	6	愛玩動物関連イベント活動の企画運営と地域振興				
	7	保護収容施設の環境整備と管理の方法				
	8	シェルターメディスン				
	9	愛玩動物の教育と訓練施設				
	10	動物の社会科トレーニングの意義と必要性				
	11	動物介在介入とは				
	12	動物介在教育施設				
	13	愛玩動物飼育マナーの必要性と目的				
	14	愛玩動物に関連するリスクとペット保険				
	15	人と愛玩動物の暮らしの未来 ふりかえり、国家試験問題の傾向と対策、筆記試験				
評価	最終課題比率	70%	授業参加度	20%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の 方法	質問回数、授業内質問に対する回答などにより評価する。				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書第6巻				
注意事項		飲み物は可。食べ物等は不可。講義中のパソコン、スマートフォンの使用は可。				
関連科目		生命倫理・動物福祉、動物行動学、人と動物の関係学、動物愛護・適正飼養関連法				
		講義事前課題	講義に関連する教科書を読み込んでおくこと			
		講義事後課題	講義の内容に関連するニュース等に目を向け反芻していくこと			

科目名		ペット関連産業概論		開講期	3年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		講義	科目区分	必修	担当講師	
					今木	
科目概要		ペット関連産業に従事する者としての職業倫理や行動倫理を理解するとともに、ペット飼育にニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。				
到達目標		ペット関連産業における職業倫理と行動倫理、ペットの飼育実態と市場規模、ペット関連産業の現状と課題、動物取扱業について、愛玩動物看護師としてどのように関わっているのかを理解すること。				
科目概要 授業計画	1	第1章ペット関連産業における職業倫理 1. 責任と社会的役割				
	2	第1章ペット関連産業における職業倫理 2. 商取引における関連法規				
	3	第1章ペット関連産業における職業倫理 3. 動物愛護管理法にもとづく事前説明				
	4	第2章ペットの飼養実態と市場規模 1. ペット飼育実態				
	5	第2章ペットの飼養実態と市場規模 2. ペット関連産業の概要と市場規模 3. ペット関連産業全体の市場規模				
	6	第3章ペット関連産業の現状と課題 1. ペット産業の分類				
	7	第3章ペット関連産業の現状と課題 2. 動物病院の現状				
	8	第3章ペット関連産業の現状と課題 3. 動物病院以外のサービス業の現状				
	9	第3章ペット関連産業の現状と課題 4. 生体販売の現状				
	10	第3章ペット関連産業の現状と課題 5. ペットショップの現状				
	11	第3章ペット関連産業の現状と課題 6. その他のペット産業の現状				
	12	第4章動物取扱業者 1. 動物取扱業者の概要				
	13	第4章動物取扱業者 2. 動物取扱業者の規制				
	14	第4章動物取扱業者 3. 動物取扱責任者				
	15	ペット関連産業の未来 ふりかえり、国家試験問題の傾向と対策、筆記試験				
評価	最終課題比率	70%	授業参加度	20%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	質問回数、授業内質問に対する回答などにより評価する。				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書第6巻				
注意事項		飲み物は可。食べ物等は不可。講義中のパソコン、スマートフォンの使用は可。				
関連科目		動物愛護・適正飼養関連法規、適正飼養指導論、動物生活環境学				
		講義事前課題	講義に関連する教科書を読み込んでおくこと			
		講義事後課題	講義の内容に関連するニュース等に目を向け反芻していくこと			

科目名		動物形態機能学実習		開講期	1年後期
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	三浦
科目概要	<p>形態機能学についての学習をより深めるため、冷凍ラット、マウス、ウズラの解剖実習を行うとともに、小型げっ歯類等の比較解剖学、鳥類の解剖学を座学で学びます。 動物形態機能学の該当する系統を復習しておくことを推奨します</p>				
到達目標	<p>前期に、系ごとに学習した形態機能学を、1つの生き物についての知識としてまとめられるようにすることで、他の教科の学習に生かせるようにします。</p>				
科目概要 授業計画	1	1. 2 ウサギの解剖学			
	2	3. 4 小型げっ歯類(ネズミ亜目、リス亜目)の比較解剖学			
	3	5 小型げっ歯類(リス亜目)の比較解剖学			
	4	6. 7 小型げっ歯類(ヤマアラシ亜目)の比較解剖学			
	5	8 フェレットの解剖学			
	6	9. 10 鳥類の解剖学(運動器)			
	7	11. 12 鳥類の解剖学(羽毛の構造)			
	8	13. 14 鳥類の解剖学(感覚器系、循環器系等)			
	9	15. 16 鳥類の解剖学(消化器系、泌尿器系、生殖器系)			
	10	17. 18 マウス(冷凍)の解剖実習			
	11	19. 20 ラット(冷凍)の解剖実習			
	12	22. 22 ウズラ(冷凍)の解剖実習			
	13	23 形態と機能の密接な関係、理解度の確認、試験と解答・解説			
	14				
	15				
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	40%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	実習でのレポート提出、実習への参加状況、座学時の参加状況			
使用教科書・教材	配布プリント				
注意事項	実習室では衛生のため原則飲食禁止、座学時の教室では飲料ok				
関連科目	動物形態機能学				

科目名		動物内科看護学実習		開講期	1年前期	
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1	
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	高砂	
科目概要		動物看護師の仕事内容を理解し適切に行えるように基礎の知識を学んでいきます。				
到達目標		動物内科看護学で学んだ知識を実務に生かせるよう繰り返し学んでいきます。				
科目概要 授業計画	1	診察室の使用方法と配置場所の確認・清掃について				
	2	アルコール綿花と外耳洗浄用の綿棒への綿花巻き				
	3	聴診器の使用方法とバイタルサイン(TPR)				
	4	シリンジと注射針				
	5	犬の保定(立位・座位・伏臥位) TPR測定				
	6	犬の保定(3パターンと横臥位) TPR測定				
	7	犬の保定とTPRの計測をスムーズに行えるよう意識する				
	8	攻撃性の強い犬への対応についてと口輪・エリザベスカラーの使用方法				
	9	猫の保定について				
	10	採血時の保定方法				
	11	医療機器の使用方法				
	12	グローブの装着方法・ガウンの着方				
	13	学校犬猫の健康管理で行う主義について				
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	毎回提出物を期限までに提出するか。授業での質問に対する積極的な発言も考慮。				
使用教科書・教材						
注意事項		スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				
関連科目		動物内科看護学				

科目名		動物内科看護学実習		開講期	1年後期
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1
授業形態	講義	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要	動物病院における診療に必要な技術と知識を身につけるため、動物にも参加してもらい、いろいろな診療行為を体験してもらいます。				
到達目標	動物の保定、バイタルチェック、投薬、採血その他内科診療の補助、準備ができるようにします。				
科目概要 授業計画	1	TPR 身体検査 体表リンパ節 経口投与 Ht測定			
	2	CRT 心音聴診 股動脈圧			
	3	点眼 ヘマトクリット管を使った血液検査			
	4	採尿法(圧迫 カテーテル 膀胱穿刺)尿検			
	5	皮下注 酸素吸入			
	6	採血			
	7	処方 調剤の補助			
	8	留置針 静注			
	9	皮下輸液			
	10	超音波検査			
	11	血液型 クロスマッチ試験			
	12	輸血			
	13	試験			
	14				
	15				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	レポート			
	授業参加度の方法	レポート 実習への積極的な参加 質問			
使用教科書・教材	愛玩動物看護師の教科書第4巻 プリント				
注意事項					
関連科目	動物内科看護学				

科目名		動物内科看護学実習		開講期	2年前期	
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1	
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	中澤	
科目概要		犬猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。				
到達目標		実際の動物病院での内科診療を想定しより高い知識、技術を習得する。				
科目概要 授業計画	1	バイタルチェック 経口投与 点眼 皮下注				
	2	採血 静注				
	3	留置針 採血 静脈内輸液				
	4	輸液ポンプ シリンジポンプの使い方				
	5	皮下輸液 静脈内輸液				
	6	血糖測定器具				
	7	血糖曲線				
	8	バリウム造影				
	9	猫の診療				
	10	猫の留置針				
	11	リブレの使い方				
	12	犬の総合診断				
	13	猫の総合診断				
	14	皮膚生検				
	15	内科看護の一連の流れ 試験				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	実習への積極性(質問 向上心 理解度など)レポート				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目		動物内科看護学				

科目名		動物外科看護学実習		開講期	2年後期	
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1	
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	中澤	
科目概要		猫の去勢不妊手術やその他の手術に参加してもらい、手術準備や術中術後看護、麻酔管理、手術補助、救命救急などの知識を吸収し実践力を高める。				
到達目標		全身麻酔の導入。気管挿管、麻酔維持を体験し、毛刈り消毒、手術補助、外回りの仕事を身につけ、術前から術後までの看護を修得し動物や飼い主さんへの心のある愛玩動物看護師を目指します				
科目概要 授業計画	1	手洗い 手の拭き方 術着と手術用手袋の装着				
	2	手術器具				
	3	総合とその器具				
	4	術野の毛刈りと消毒				
	5	気管挿管の準備				
	6	麻酔器の使い方				
	7	注射麻酔				
	8	術中モニター				
	9	犬 気管挿管と毛刈り消毒				
	10	猫 気管挿管と毛刈り消毒				
	11	術前検査				
	12	犬 歯石除去				
	13	全体の流れ 筆記試験 まとめ				
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	レポート 実習への積極的な参加 質問など				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書第4巻 プリント				
注意事項						
関連科目		動物外科看護学				

科目名		動物外科看護学実習		開講期	3年前期	
単位時間		45	コマ数	23	単位数	1
授業形態		実習	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要		猫の去勢手術不妊手術やその他の手術を実際に体験してもらい手術準備や術中術後、看護、麻酔管理、手術の補助、救命救急など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を高めます。				
到達目標		全身麻酔への導入、気管挿管、麻酔維持、手術への流れの中で目刈り消毒、麻酔、手術補助、外回りの仕事を身につけ術前から術後の看護を修得、動物や飼い主さんへの心ある動物看護師を目指します。				
科目概要 授業計画	1	手洗い、手の拭き方、術着手術用手袋の装着				
	2	気管挿管の準備方法				
	3	麻酔器				
	4	猫 注射麻酔				
	5	猫 気管挿管と毛刈り消毒				
	6	術前検査(CBCと血液生化学)				
	7	術前検査(血液生化学、レントゲンエコー)				
	8	外科器具、縫合法				
	9	犬 気管挿管				
	10	歯石除去				
	11	犬 術中モニター				
	12	気管挿管 歯石除去				
	13	全体の流れ 筆記試験 まとめ				
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	レポート 実習への積極的な参加 質問など				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書第4巻 プリント				
注意事項						
関連科目		動物外科看護学				

科目名		動物臨床看護学実習		開講期	3年前期
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要	動物臨床看護学で学んだ内容をもとに、具体的な症例を想定して動物看護過程を展開し、実際の流れに即して診察、検査の準備、補助をシミュレーションしつつ動物への看護介入や飼い主への指導、配慮の実際について学ぶ。				
到達目標	実際の症例に対面したときに、動物看護過程を展開すると共に、よどみなく診察、検査、治療の補助ができ、動物・飼い主双方の利益となる看護を提供できるようになること。				
科目概要 授業計画	1	動物看護過程とは：考え方の道筋をたどってみる			
	2	看護過程の展開① アセスメントの実際：問診表から得る情報・問診の仕方			
	3	看護過程の展開② 身体検査・検査所見の解釈			
	4	看護過程の展開③ 動物看護診断：問題点の把握 看護介入 優先順位			
	5	看護過程の展開④ 動物看護計画：管理目標			
	6	看護過程の展開⑤ 動物看護計画：問題点の解決のための計画			
	7	呼吸器疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	8	循環器疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	9	内分泌疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	10	血液疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	11	免疫介在性疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	12	皮膚疾患の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	13	外傷の症例：看護過程の展開 診察、検査補助と看護			
	14	ロールプレイング① 看護師と飼い主との情報交換シミュレーション			
	15	ロールプレイング② 看護師役と飼い主役を入れ替えてシミュレーション			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験 事前に周知する課題に関するレポートを期日までに提出すること			
	授業参加度の方法	各症例ごとに、実習中に作成するワークシートを完成させて期日までに提出したものの評価点を累積して加算する			
使用教科書・教材	プリント(ワークシート)				
注意事項	飲料持ち込み可、スマートフォン・タブレット使用可				
関連科目	動物臨床看護学各論				

科目名		動物臨床看護学実習		開講期	3年後期
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	牧田
科目概要	動物臨床看護学各論で学んだ内容をもとに、具体的な症例を想定して動物看護過程を展開し、実際の流れに即して診察、検査の準備、補助をシミュレーションしつつ動物への看護介入や飼い主への指導、配慮の実際について学ぶ。				
到達目標	実際の症例に対面したときに、動物看護過程に沿った思考ができること。更に、診察、検査、治療の補助および動物・飼い主双方の利益となる看護とは何かを常に念頭に置けるようになること。				
科目概要 授業計画	1	ロールプレイング①:胃腸炎の症例			
	2	ロールプレイング②:猫ウイルス性上部気道炎の症例			
	3	動物看護過程の展開:感覚器疾患の症例			
	4	動物看護過程の展開:神経学的疾患の症例			
	5	動物看護過程の展開:整形外科学的疾患の症例			
	6	動物看護過程の展開:整形外科学的疾患の症例 ロバート・ジョーンズ法実技			
	7	動物看護過程の展開:排泄機能障害の症例			
	8	動物看護過程の展開:生殖器疾患の症例① 雌性生殖器疾患			
	9	動物看護過程の展開:生殖器疾患の症例② 雄性生殖器疾患			
	10	動物看護過程の展開:腫瘍性疾患			
	11	動物看護過程の展開:救急疾患の動物看護			
	12	ロールプレイング③:糖尿病の症例			
	13	ロールプレイング④:慢性腎疾患の症例			
	14	ロールプレイング⑤:ストルバイト結晶尿による膀胱炎の症例			
	15	ロールプレイング⑥:猫特発性膀胱炎の症例			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	指定の課題 テーマ毎にワークシートを完成させて提出			
	授業参加度の方法	ワークシートの提出状況とその内容を考慮して評価します			
使用教科書・教材	テーマ毎のワークシートを配布				
注意事項	スマートフォン、タブレット等使用OK				
関連科目	動物臨床看護学各論				

科目名		動物臨床検査学実習		開講期	1年前期		
単位時間		45	コマ数	23	単位数		
授業形態		実習	科目区分		必修	担当講師	
				門田			
科目概要		<p>基礎的な知識と器具の使い方を学びます。 本校では多くの犬猫が常在し、常に気になる症状が多発します。 最も大切なのは目の前の動物であり、それを踏まえたうえで、便および尿などの標本を観察・検査することによりより多くの情報が得られます。臨床はベッドサイドが語源で、患者の所見や履歴から切り離さずに検体を調べ、それを臨床に還元することが目的です。</p>					
到達目標		<p>日々生じる症状について、患者の状況を把握し、検体を処理して観察できるようになります。授業内ではそこまで到達できません。失敗を恐れず、機会をつかみ、実践力を鍛えましょう！</p>					
科目概要 授業計画	1	顕微鏡の扱い方					
	2	組織標本の見方					
	3	糞便検査でわかること					
	4	糞便検査：採便法					
	5	糞便検査：直接法					
	6	糞便検査：浮遊法					
	7	尿検査でわかること					
	8	尿検査：採尿法					
	9	尿検査：尿比重					
	10	尿検査：尿試験紙					
	11	尿検査：尿沈渣					
	12	皮膚検査 毛検査					
	13	血液検査					
	14	その他基本的な検査					
	15	学校犬猫で実際に行う基本的検査					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席		
	最終課題の方法	筆記試験					
	授業参加度の方法	授業態度 提出物 小テスト 出席状況					
使用教科書・教材							
注意事項							
関連科目							

科目名	動物臨床検査学実習			開講期	2年
単位時間	45	コマ数	23	単位数	1
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	中澤
科目概要	様々な臨床検査の原理や方法, 意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。				
到達目標	動物病院で行なわれる血液、尿、便などを検体とした臨床検査を確実にこなせるようにし、レントゲン、エコー検査などの画像検査の補助ができるようにする。				
科目概要 授業計画	1	血液塗抹検査			
	2	血清分離 血液生化学検査			
	3	血液生化学検査			
	4	血液塗抹検査 血液生化学検査(猫)			
	5	心電図検査			
	6	心電図検査と血圧			
	7	レントゲン検査			
	8	超音波検査			
	9	皮膚検査			
	10	眼科検査			
	11	細胞診			
	12	神経学的検査			
	13				
	14				
	15				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	実習への積極性(質問 向上心 理解度など)レポート			
使用教科書・教材					
注意事項					
関連科目	臨床検査学 動物内科看護学				

科目名	動物看護総合実習			開講期	2～3年
単位時間	180	コマ数	90	単位数	4
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	高砂
科目概要	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまで学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連帯、飼主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実践能力を修得する。				
到達目標	2年前期:動物看護業務の理解 2年後期:動物看護業務の体験 3年:動物看護業務の実践				
科目概要 授業計画	1	チーム獣医療			
	2	愛玩動物看護師の役割			
	3	動物診療施設の設備や機能			
	4	愛玩動物を適正に管理する方法			
	5	診療室における獣医療補助行為			
	6	各種検査の補助			
	7	処置の補助			
	8	外科手術の補助			
	9	入院動物の看護			
	10	飼い主との適切なコミュニケーション			
	11	スタッフとの連携協働			
	12	動物看護計画			
	13	適正飼養指導			
	14	療養生活指導			
	15	振り返り:学びを文章や資料にまとめ共有する			
評価	最終課題比率	40%	授業参加度	60%	出席
	最終課題の方法	指定の課題 日誌および最終提出物			
	授業参加度の方法	日誌の記述 実習担当者の評価			
使用教科書・教材					
注意事項					
関連科目	動物内科看護学 動物外科看護学 臨床動物看護学 院内コミュニケーション				

科目名	動物愛護・適正飼養実習			開講期	1年	
単位時間	90	コマ数	45	単位数	2	
授業形態	実習	科目区分	必修	担当講師	高砂	
科目概要	<p>学校犬猫を通じて、適正な飼養管理を実践的に学びます。 特に犬猫の安全はもちろん、関る人の安全が何より重要です。 適正な飼養のためには仲間との情報共有が欠かせません。職業に従事するためには仲間とのコミュニケーションが特に重要です。 学校犬は個人の私物ではありません。自らの感情をコントロールする必要があります。動物を擬人化しないこと。犬猫は人の感情を動かす対象ですのでとても難しいですが、学ぶ上でとても大切なことです。</p>					
到達目標	<p>関わる人と動物の安全に配慮できるようになります。 動物の飼養管理に関する基本的な取扱いができるようになります。 他者との情報交換が適切に行えるようになる。 犬猫を介して教員、先輩および同学年とのコミュニケーションができるようになる。</p>					
科目概要 授業計画	1	犬:安全なハンドリング				
	2	犬:安全な散歩				
	3	犬:安全な運動				
	4	犬:適切な道具の選択と使い方				
	5	犬:基本的なグルーミング				
	6	犬:飼養環境の整備				
	7	犬:複数犬での取り扱い				
	8	犬:情報共有と発信				
	9	猫:安全な取り扱い				
	10	猫:衛生管理				
	11	猫:食事管理				
	12	猫:飼養環境の整備				
	13	記録と情報共有				
	14	健康管理				
	15	狂犬病予防接種 フィラリア症予防 動物愛護と保護				
評価	最終課題比率	10%	授業参加度	75%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	日常の世話が何より大切です。当番に参加する、コミュニケーションをとる、安全を第一としミスは反省し予防する、仲間からの信頼を得る。評価点は多岐にわたります。				
使用教科書・教材						
注意事項		人の安全>動物の安全>逃がさない>病気を拡げない>衛生管理>>>癒し				
関連科目		適正飼育指導論 グルーミング実習				

科目名	マナー講座			開講期	1～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	奥田	
科目概要	自己理解・他者理解を深めるための体験学習を通して、対人関係の基礎となるコミュニケーション力アップを目指す。また、社会人として求められる基本的なマナーを学び、職場での信頼関係を構築する力を育む。					
到達目標	社会人として必要な挨拶・対人スキル・電話応対など一般常識としてのマナーを学び実践できる力を身に付け、実習、就職活動にも役立てます。					
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション コミュニケーションとマナーを学ぶ意味				
	2	自己理解 自分分析による「思い込み枠」とその広げ方				
	3	コミュニケーションの仕組み 一方向・双方向の違いとミス・コミュニケーション				
	4	コミュニケーションの仕組み 一方向・双方向の違いとミス・コミュニケーション				
	5	話す・きく・観る① 「伝える力」のチェック 「伝わる声」「伝わる言葉」とは				
	6	話す・きく・観る② 「きく力」のチェック 傾聴姿勢トレーニング				
	7	話す・きく・観る③ 「共感する力」のチェック 「繰り返し」「言い換え」の練習				
	8	話す・きく・観る④ 情報を正しく共有するための「質問」				
	9	話す・きく・観る⑤ 言葉にならない心を読み取る「観察力」				
	10	信頼関係をつくる言葉と言い換え あいさつとビジネスフレーズ				
	11	電話応対マナー 声に表情をつくる				
	12	来客応対マナー 好印象な受付・案内・会計・見送りのポイント				
	13	職場でのマナー 実践ロープレ①				
	14	* 定期試験実施(筆記) 職場でのマナー 実践ロープレ②				
	15	* 定期試験解説 「チームワーク」の高め方				
評価	最終課題比率	35%	授業参加度	50%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	①ワークへの積極的な参加態度②授業目標到達度③提出物の内容④確認ミニテストで総合的に評価します。				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目						

科目名	心理学			開講期	1～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	選択必修	担当講師		
科目概要	<p>・日常生活における自己理解・他者理解に活かすことを目的に、心理学(主に臨床心理学、発達心理学、対人コミュニケーション、心理支援)について学びます。人の心理への理解を深め、動物看護の現場や日常生活において実践・応用できる知識について学んだり、実践的な対応のあり方を考えます。</p>					
到達目標	<p>・心理学の知識の獲得と実践を通して人間の心理の理解をを深める。日常生活にどのような心理学的な視点があるのか理解する。</p>					
科目概要 授業計画	1	いままでの”わたし”を振り返ろう①(発達心理学①)				
	2	いままでの”わたし”を振り返ろう①(発達心理学②)				
	3	いまの”わたし”を知ろう①(自己理解)				
	4	いまの”わたし”を知ろう②(心理検査)				
	5	これからの”わたし”を考えよう(アイデンティティ)				
	6	”わたし”と”あなた”①(対人関係、集団心理)				
	7	”わたし”と”あなた”②(コミュニケーション実習)				
	8	マインドマップ				
	9	ペットロス				
	10	アンガーコントロール				
	11	発達障害				
	12	境界領域				
	13	アニマルセラピーと心理学				
	14	多様性と心理学				
	15	学生生活および職業生活における心理学の応用				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	指定の課題				
	授業参加度の方法	積極的な授業態度 小テスト				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目	適正飼育指導論 院内コミュニケーション					
	講義事前課題	予習課題				
	講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習				

科目名	PCスタンダード			開講期	1～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師		
科目概要	<p>基本的なビジネスソフトはあらゆる職業において基本スキルである。 文書管理、表計算およびプレゼンテーションソフトの基礎を学び、学生生活はもちろん卒業後の職業教育に活かせる技能を修得する。</p>					
到達目標	<p>マイクロソフトオフィスを中心としたビジネスITスキルを使えるようになる。</p>					
科目概要 授業計画	1	PCの基本				
	2	ネットワークの基本				
	3	文書管理ソフトについて				
	4	文書作成				
	5	グラフィック機能				
	6	表のある文書				
	7	表計算ソフトについて				
	8	データ入力				
	9	表の作成				
	10	グラフ作成				
	11	データ分析				
	12	プレゼンテーションソフトについて				
	13	プレゼンテーション				
	14	スライドショー				
	15	アプリケーションの連携・共有				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	指定の課題				
	授業参加度の方法	積極的な授業態度 小テスト				
使用教科書・教材						
注意事項		PCを各自用意すること				
関連科目						

科目名		動物行動学			開講期	2年前期
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	選択必修	担当講師	菊地	
科目概要		犬のトレーニング、犬猫の問題行動への対処				
到達目標		1年生後期の授業を基本としてより深く犬猫の行動について学び、問題の防御や問題行動への対処の手法を身に付ける				
科目概要 授業計画	1	社会化復習: 社会化とは、社会化の時期、社会化のさせ方				
	2	学習理論復習①: 古典的条件づけ、オペラント条件付け(より実践的に使うために)				
	3	学習理論復習②: シェーピング、ターゲティング、チェーニング				
	4	犬のトレーニング実践①基本動作と応用				
	5	犬のトレーニング実践②シェーピング(トリック他)				
	6	犬のトレーニング実践③チェーニング(ドッグダンス)				
	7	犬の社会化: 社会化のさせ方(様々な道具を使う)				
	8	子犬の問題行動への対処の仕方①: 甘噛み、排泄、要求吠え、破壊行動他				
	9	子犬の問題行動への対処の仕方②: お留守番ができない、引っ張り、異食他				
	10	犬の攻撃行動への対処の仕方①: 自己主張性攻撃、所有性攻撃、なわばり性の攻撃、恐れによる攻撃他				
	11	犬の攻撃行動への対処の仕方①: 自己主張性攻撃、所有性攻撃、なわばり性の攻撃、恐れによる攻撃他				
	12	犬の攻撃行動への対処の仕方②: 遊びによる攻撃、母性攻撃、痛みによる攻撃、捕食性による攻撃他				
	13	犬の吠える行動への対処の仕方: 要求吠え、自己防衛、興奮、なわばり、興奮他				
	14	猫の問題行動への対処の仕方①: 自己主張性攻撃、所有性攻撃、なわばり性の攻撃、恐れによる攻撃他				
	15	猫の問題行動への対処の仕方②: 遊びによる攻撃、捕食性による攻撃、愛撫による攻撃他				
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	30%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	小テスト、レポート提出				
使用教科書・教材		愛玩動物看護師の教科書 第4巻 緑書房				
注意事項						
関連科目						
		講義事前課題	関連分野の教科書を熟読			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名	愛玩動物臨床演習			開講期	1～3年	
単位時間	30～150	コマ数	15～75	単位数	1～5	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師		
科目概要	動物愛護・適正飼養実習で学んだ事柄を、学年を超えた学びと動物看護の知識と技能を用いた臨床的視点で応用していきます。 記録、伝達および看護のサイクルを実際に行うことで、その経過を時系列で追うことで、動物と飼い主の状況を理解し、指導を行います。					
到達目標	看護記録ができるようになる。 学年を超えたコミュニケーションができるようになる。 適切な飼主指導ができるようになる。					
科目概要 授業計画	1	犬:安全なハンドリング				
	2	犬:安全な散歩				
	3	犬:安全な運動				
	4	犬:適切な道具の選択と使い方				
	5	犬:基本的なグルーミング				
	6	犬:飼養環境の整備				
	7	犬:複数犬での取り扱い				
	8	犬:情報共有と発信				
	9	猫:安全な取り扱い				
	10	猫:衛生管理				
	11	猫:食事管理				
	12	猫:飼養環境の整備				
	13	記録と情報共有				
	14	健康管理				
	15	狂犬病予防接種 フィラリア症予防 動物愛護と保護				
評価	最終課題比率	10%	授業参加度	75%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	日常の世話が何より大切です。当番に参加する、コミュニケーションをとる、安全を第一としミスは反省し予防する、仲間からの信頼を得る。評価点は多岐にわたります。				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目						
動物愛護・適正飼養実習						

科目名	中獣医療演習		開講期	2～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	
科目概要	動物医療の中で実施されている中獣医学的な取り組みの中でも、特に動物看護師が実施できるお灸や動物マッサージ(推拿)を実施するために必要な知識を習得し、実施できるようになることを目指しています。具体的には、経絡経穴学、中獣医学的な基礎知識を理解した上で実施できるように解説、指導します。				
到達目標	獣医師の指示のもと、施灸や動物マッサージ(推拿)が出来るようになること				
科目概要 授業計画	1	経絡経穴学①経絡経穴概説 東洋医学の基礎知識①東洋医学とは 症例紹介			
	2	経絡経穴学②十二経絡 東洋医学の基礎知識② 五臓六腑 症例紹介			
	3	経絡経穴学実習① 経穴経絡学③十二経絡 東洋医学の基礎知識③陰陽・五行 症例紹介			
	4	経絡経穴学実習② お灸の基礎知識 施灸実習① 症例紹介			
	5	経絡経穴学④十二経絡、督脈任脈 経絡経穴学実習③ 施灸実習②			
	6	漢方薬の基礎知識① 生薬分類 東洋医学の基礎知識④気血津液 症例紹介			
	7	獣医推拿学①推拿基礎知識 推拿学実習① 経絡経穴学実習④			
	8	漢方薬の基礎知識② 方剤分類 東洋医学の基礎知識⑤気血津液の働き 症例紹介			
	9	獣医推拿学②基本手技 推拿学実習② 施灸実習 経絡経穴学実習④			
	10	施灸実習 獣医推拿学③臨床手技			
	11	総合実習(実習犬を用いて経絡経穴、施灸、推拿臨床手技の実施 4頭をグループごと)			
	12	獣医推拿学④臨床手技 各種疾患に対する中獣医学的なアプローチ			
	13	総合実習(実習犬を用いて経絡経穴、施灸 推拿臨床手技の実施 4頭をグループごとに)			
	14	総合実習(①鍼灸治療デモ 4頭の実習犬に施灸、推拿臨床手技)			
	15	臨床効果の出やすいツボ ヒトと動物の経穴(講義) 最終課題 経絡経穴・推拿学のテスト			
評価	最終課題比率		授業参加度	出席	100%
	最終課題の方法	筆記試験			
	授業参加度の方法	経絡経穴については2回目から毎回ミニテスト実施 学生の臨床獣医学的な知識を確認するために簡単な質問を多用します			
使用教科書・教材	プロジェクターorモニター 黒板 プリント				
注意事項	飲料持ち込み可 スマホ、PC、タブレット原則不可				
関連科目	臨床系全般				

科目名		救急救命対応		開講期	3年後期	
単位時間		15	コマ数	8	単位数	
授業形態		講義	科目区分	選択必修	担当講師	沢田
科目概要		夜間救急病院等を含む動物病院での実務経験を活かし、動物看護師として必要な救急救命対応の知識を身に付け、迅速な対応ができる人材を目指します。				
到達目標		救急患者に対しての的確なトリアージができるようになる。 救急の状態に陥りやすい疾患とそれぞれの対処法を学ぶ。 心肺蘇生の基礎的な知識と手技を身に付ける。				
科目概要 授業計画	1	VNの役割、心構え 緊急時のトリアージ				
	2	トリアージの具体例、ショックの病態				
	3	中毒、異物誤食				
	4	外傷、熱傷、感電、熱中症				
	5	けいれん、胃捻転、肺水腫、血栓症				
	6	心肺蘇生 前編				
	7	心肺蘇生 後編				
	8	【実習】エマージェンシーシミュレーション				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	30%	出席	10%
	最終課題の方法	指定の課題				
	授業参加度の方法	授業中の質疑応答、毎時間小テスト実施、実習終了後はレポート提出				
使用教科書・教材		プリント配布、パソコン、プロジェクター使用				
注意事項		飲み物は可、スマートフォンは授業に必要と判断した場合のみ				
関連科目		動物外科看護学				
		講義事前課題	予習課題			
		講義事後課題	習った分野に関連する具体的事例の検索および学習			

科目名	動物飼育演習			開講期	1～3年	
単位時間	30～300	コマ数		単位数	1～10	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	向	
科目概要	<p>上級生と協働で実際に動物の飼養管理を行うことにより、種の特徴を知り、基本的行動様式と国際基準である「5つの自由」を意識した動物福祉を遵守し飼育及びトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や課題解決能力を身につけ一人でやり遂げる責任感を修得します。</p>					
到達目標	作業の基本を身に着け、飼育と作業の違いを知り、動物福祉を考察する。					
科目概要 授業計画	1	作業手順を身に付ける(マニュアルの見方)				
	2	作業手順を身に付ける(飼育日誌の記入法)				
	3	飼育を身に付ける(観察法)				
	4	飼育を身に付ける(課題発見)				
	5	自立し同学年と協働性を身に付ける(作業と飼育の違いを知る)				
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	35%	授業参加度	50%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	授業参加度は相談、報告、ミーティングによる発言、意見などディスカッションを評価する。				
使用教科書・教材						
注意事項		必ずしも実習着を着用する必要は無いが、汚れる可能性がある。				
関連科目		生命倫理・動物福祉 比較動物学				

科目名	しつけ・トレーニング			開講期	1～3年
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	前田
科目概要	イヌの基本的な扱い、接し方を習得し犬との信頼関係を構築する				
到達目標	イヌに対する、福祉的なトレーニング方法を習得				
科目概要 授業計画	1	「福祉的なトレーニング」とは何か			
	2	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明			
	3	担当犬の行動様式を理解する			
	4	トレーニングの目的、イヌと接する上での注意点			
	5	リードの使い方、結び方、持ち方			
	6	トレーニングの手順			
	7	指示の出し方、対応の仕方			
	8	行動形成： スワレ・フセ			
	9	イヌの行動を促すための環境の作り方			
	10	各イヌに則した「強化子」について理解する			
	11	行動形成： 一緒に歩く			
	12	行動形成： マテ・コイ・タッチ			
	13	各自イヌに習得させたい動作を選択し、手順を考える			
	14	行動形成： 考えた手順を実行し、イヌに習得させる			
	15	行動形成： 各動作を一連の流れの中で遂行する			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	指定の課題			
	授業参加度の方法	イヌに対する態度・接し方、担当犬の行動			
使用教科書・教材	動きやすい服装、イヌのトリーツ・オモチャを用意してください。				
注意事項	授業中はイヌの状態を最優先する				
関連科目	動物行動学				

科目名	しつけ・トレーニング			開講期	1～3年
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	前田
科目概要	イヌの基本的な行動形成方法を習得し、不適応的な行動の変容へ応用する				
到達目標	イヌの行動形成・行動変容方法を習得し、飼い主に適切なアドバイスができるようになる				
科目概要 授業計画	1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明			
	2	見知らぬイヌとの接し方			
	3	リードの使い方、持ち方、結び方			
	4	トレーニングの目的と手順			
	5	行動形成： 離せ(ちょーだい)			
	6	各イヌに則した「強化子」について理解する			
	7	行動形成： ゴロン			
	8	イヌの行動を引き出す環境設定について考える			
	9	行動形成： 前掻き			
	10	形成した行動を日常のケアに活かす			
	11	行動変容： 「インターフォンの音」を伏せのキューに転移させる			
	12	行動を誘発する「刺激」と「結果」について理解する			
	13	各自イヌの変容させたい行動を選択し、トレーニング手順を考える			
	14	考えた手順を実行し、イヌの行動を変容させる			
	15	トレーニング成果披露			
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席
	最終課題の方法	指定の課題			
	授業参加度の方法	イヌへの態度・接し方、イヌの行動			
使用教科書・教材	動きやすい服装、イヌのトリーツ・オモチャを用意してください				
注意事項	授業中はイヌの状態を最優先する				
関連科目					

科目名	動物のためのデザイン学			開講期	2～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	2	
授業形態	講義	科目区分	選択必修	担当講師	春日	
科目概要	<p>キーワード(意義) 職業犬のための道具のデザイン、伴侶動物の動物福祉、産業動物の動物福祉、展示動物の動物福祉、環境エンリッチメント、常同行動の表出の防止、(副次的には動物園来園者に対する、生態や動物種ごとの認知能力についての教育的意義)</p>					
到達目標	動物のための道具や環境のデザインの先行例の一端を学び、自分たち自身で、「どんな動物に生じうる、どんな問題を解決するために、どんなアプローチとして、どんな道具や環境をデザインしたいか」というアイデアを考えることができるようになること。					
科目概要 授業計画	1	動物のためのデザイン(導入回)ー生物から見た世界ー				
	2	動物のためのデザイン(導入回)&他己紹介				
	3	長寿な鳥の悩みを聞いてください&グループ分けのための他己紹介				
	4	デザイン研究概要説明&グループワーク班分け				
	5	色々な展示動物&産業動物のためのデザイン&Animal-Computer Interaction(以下、ACI)の論文の読み方①				
	6	動物のためのデザイン研究法I(ヒトへのインタビュー分析法①)&論文の読み方②				
	7	動物のためのデザイン研究法II(複数名の評価者による動物の行動評価の信頼性)&論文の読み方③				
	8	動物のためのデザイン研究法III(質問紙による評価)&論文の読み方④				
	9	動物のためのデザイン研究法IV(倫理審査)&論文の読み方⑤				
	10	生物性の認知・知覚って何？				
	11	先行研究紹介プレゼン回&各学生のプレゼンへのフィードバック①				
	12	先行研究紹介プレゼン回&各学生のプレゼンへのフィードバック②				
	13	グループワーク発表①				
	14	グループワーク発表②				
	15	グループワーク発表フィードバック				
評価	最終課題比率	30%	授業参加度	70%	出席	
	最終課題の方法	成果発表	グループワークの発表内容			
	授業参加度の方法	毎回のリアクションペーパー、ACI論文内容紹介プレゼン、受講態度				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目						
講義事前課題 授業鵜に対する事前予習 発表準備						
講義事後課題 リアクションに対する振り返りを行うこと						

科目名		行動変容法		開講期	2～3年	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		演習	科目区分	選択必修	担当講師	
					前田	
科目概要		<p>イヌのQOLを最重要視した上で、イヌとヒトが協調して暮らしていけるよう「行動分析学」を用いた行動変容法を学びます。</p> <p>学校犬をモデルに、イヌのボディランゲージの読解や、不適応行動の予防・改善、ハズバンドリートレーニングを実践的に行います。</p>				
到達目標		<p>一般飼い主からハズバンドリートレーニングや不適応行動の相談を受けた際に、適切なアドバイスができるようになることを目標とします。</p>				
科目概要 授業計画	1	動物福祉の観点からイヌのQOLを考える				
	2	イヌのボディランゲージを読む				
	3	学習理論基礎:レスポンド条件づけ				
	4	学習理論基礎:オペラント条件づけ				
	5	学習理論基礎:三項随伴性・ABC分析				
	6	応用: 実際の行動を分析する				
	7	学習理論基礎:弱化的副次的効果について				
	8	不適応行動が発生する原因について理解する				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	イヌとの接し方・発言数				
使用教科書・教材		トリーツ				
注意事項		イヌ第一優先！イヌの負担になる行為は行わないこと				
関連科目		動物行動学				

科目名	愛玩動物飼養演習			開講期	1～3年	
単位時間	30～150	コマ数	15～75	単位数	1～5	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	高砂	
科目概要	動物愛護・適正飼養実習を踏まえ、学内動物の飼養管理を行うことで実践的な学びを得る。					
到達目標	後輩への指導を通じて自らの理解度を確認し、人への伝え方、コミュニケーションを適切に行えるようになる。					
科目概要 授業計画	1	犬:安全なハンドリング				
	2	犬:安全な散歩				
	3	犬:安全な運動				
	4	犬:適切な道具の選択と使い方				
	5	犬:基本的なグルーミング				
	6	犬:飼養環境の整備				
	7	犬:複数犬での取り扱い				
	8	犬:情報共有と発信				
	9	猫:安全な取り扱い				
	10	猫:衛生管理				
	11	猫:食事管理				
	12	猫:飼養環境の整備				
	13	記録と情報共有				
	14	健康管理				
	15	狂犬病予防接種、フィラリア症予防				
評価	最終課題比率	10%	授業参加度	75%	出席	15%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	日常の世話が何より大切です。当番に参加する、コミュニケーションをとる、安全を第一としミスは反省し予防する、仲間からの信頼を得る。評価点は多岐にわたります。				
使用教科書・教材						
注意事項						
情報共有 お互いに敬意を払った伝え方						
関連科目						
動物愛護・適正飼養実習						

科目名		エキゾチックアニマル		開講期	3年前期	
単位時間		15	コマ数	8	単位数	1
授業形態		講義	科目区分	選択必修	担当講師	沢田
科目概要		エキゾチックアニマルの生態を理解し、適切な取り扱いを学びます。 エキゾチックアニマルの診療に必要な検査、処置を理解し、適切な準備を学びます。				
到達目標		適切な保定方法を身に着ける 飼い主に適切な説明が口頭およびリーフレット等でできるようになる				
科目概要 授業計画	1	オリエンテーション、エキゾチックアニマルとは				
	2	エキゾチックアニマルの看護(うさぎ)				
	3	エキゾチックアニマルの看護(げっ歯類 モルモット、チンチラ、デグー)				
	4	エキゾチックアニマルの看護(げっ歯類 ハムスター、リス フクロモモンガ)				
	5	エキゾチックアニマルの看護(フェレット、ミーアキャット、ハリネズミ)				
	6	エキゾチックアニマルの看護(鳥類)				
	7	エキゾチックアニマルの看護(両生類、爬虫類)				
	8	卒業制作 飼い主向けリーフレットの作成				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	60%	授業参加度	30%	出席	10%
	最終課題の方法	レポート				
	授業参加度の方法	質疑応答 小テスト				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目		比較動物学				

科目名	アニマルブレース			開講期	2～3年	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	斎藤	
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患によって義肢装具の機能が異なることを知る機会にする。 ・動物の運動器系の疾患に対して義肢装具の面からの治療の補助のアプローチの一つを学ぶ。 ・ヒトの疾患やヒトに対しての義肢装具を基にして、動物に応用出来るように考える。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレースクリニックがある場合でも、採型・採寸のサポートができるような予備知識を身に付けるようにする ・動物の採型(石膏での型取り)の補助ができる ・簡単な補助具の製作ができる 					
科目概要 授業計画	1	動物の義肢装具について(動画視聴)				
	2	【概論】義肢と装具について (ヒトの場合 製作工程)				
	3	犬 採寸見学(演習)				
	4	犬 仮合わせ見学(演習)				
	5	犬 適合見学				
	6	イヌ採型見学				
	7	採寸について				
	8	歩行について				
	9	採型について(実習)				
	10	【課題】疾患に対する補装具の採寸				
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価	最終課題比率	20%	授業参加度	70%	出席	10%
	最終課題の方法	指定の課題				
	授業参加度の方法	授業に対する積極性				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目		動物形態機能学 動物外科看護学				

科目名		動物看護師講座		開講期	3年前期	
単位時間	30	コマ数	15	単位数	1	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	門田 高砂	
科目概要		<p>愛玩動物看護師は名称独占と業務独占を有する国家資格であり、国家試験に合格することは、実務的にも社会的にも責務である。</p> <p>試験内容は愛玩動物看護師としての常識であり、復習を通じて体系化を行い、卒業後の職業人生の基盤となる。</p> <p>頻出重要問題のまとめ、過去問題の演習による理解促進を中心に学ぶ。</p>				
到達目標		愛玩動物看護師国家試験の合格				
科目概要 授業計画	1	第1章 生命のすかた 細胞、組織、体液、体腔 体を構成する器官のもととなる組織、細胞、体の基本構造や体液、体腔、動物の体の向きを表す用語について				
	2	第2章 循環器とその調節 心臓、血管系、リンパ管系の構造や位置、役割について、胎子循環について				
	3	第3章 呼吸器とその調節 呼吸器の構造、ガス交換のしくみ、酸素と二酸化炭素の運搬について				
	4	第4章 消化器と栄養代謝 消化器 消化管と消化腺について、動物種ごとに特徴的な消化管の構造について				
	5	第4章 消化器と栄養代謝 栄養代謝 消化と吸収、代謝のしくみについて				
	6	第5章 内分泌とホルモン 外分泌と内分泌の違い、内分泌腺とホルモン				
	7	第5章 内分泌とホルモン 視床下部—下垂体—内分泌系の支配とフィードバックについて				
	8	第6章 泌尿器と体液調節 泌尿器を構成する臓器と位置、動物種と雌雄での差異、尿の生成と体液調節について				
	9	第7章 脳と神経 脳 中枢神経系(脳と脊髄)、末梢神経系(体性神経系と自律神経系)について				
	10	第8章 運動器 骨と骨格筋、関節について				
	11	第9章 血液と造血器 血液の成分、血球の構造と機能、造血、血液凝固について				
	12	第10章 皮膚と感覚器 皮膚 ターンオーバー、表皮、真皮、皮下組織、皮膚の機能について				
	13	第10章 皮膚と感覚器 特殊感覚 視覚、聴覚				
	14	第10章 皮膚と感覚器 特殊感覚と深部感覚、内臓感覚 平衡感覚、嗅覚、味覚				
	15	ミクロとマクロ				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	小テスト				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目		動物形態機能学				

科目名		動物看護師講座		開講期	3年後期	
単位時間	90	コマ数	45	単位数	3	
授業形態	演習	科目区分	選択必修	担当講師	門田 高砂	
科目概要	<p>愛玩動物看護師は名称独占と業務独占を有する国家資格であり、国家試験に合格することは、実務的にも社会的にも責務である。</p> <p>試験内容は愛玩動物看護師としての常識であり、復習を通じて体系化を行い、卒業後の職業人生の基盤となる。</p> <p>頻出重要問題のまとめ、過去問題の演習による理解促進を中心に学ぶ。</p>					
到達目標	愛玩動物看護師国家試験の合格					
科目概要 授業計画	1	生命倫理・福祉 動物繁殖学				
	2	動物行動学 動物栄養学				
	3	比較動物学				
	4	動物看護関連法規 動物愛護・適正飼養関連法規				
	5	動物看護学概論				
	6	動物病理学 動物薬理学				
	7	動物感染症学 公衆衛生学				
	8	動物内科看護学 動物外科看護学				
	9	動物臨床看護学総論 動物臨床看護学各論				
	10	動物臨床検査学 動物医療コミュニケーション				
	11	愛玩動物学 人と動物の関係学				
	12	適正飼養指導論				
	13	動物生活環境学 ペット関連産業概論				
	14	動物形態機能学実習 動物愛護・適正飼養実習				
	15	動物内科看護学実習 動物外科看護学実習 動物臨床検査学実習 動物臨床看護学実習 動物看護総合実習				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	50%	出席	
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	小テスト				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目	すべて					

科目名		卒業研究制作		開講期	3年後期	
単位時間		30	コマ数	15	単位数	
授業形態		演習	科目区分	選択必修	担当講師	
					高砂	
科目概要		3年間の集大成として、自ら仮題を設定し、調べ、制作物(あるいは発表できるもの)を作り、発表し、評価を得る。 (例) 3年間の在学中に学んだ動物看護に関する事をポスター制作し、発表する。				
到達目標		疑問を持ち、問題を発見し、調べ、作り、発表し、評価を得る。 一連の課程を体験し、能動的な行動と適切な評価ができるようになる。				
科目概要 授業計画	1	調査 アンケート 疑問 課題発見				
	2	既存の知見を検索				
	3	仮題の設定 事例研究 症例検討 制作物の対象				
	4	犬の疾病についてのポスター制作① (疾病について調べ、どのような病気・症状なのかを理解する)				
	5	犬の疾病についてのポスター制作 ②(看護のポイントを考える)				
	6	犬の疾病についてのポスター制作 ③(動物看護師が留意すべき点について把握する)				
	7	犬の疾病についてのポスター制作 ④(疾病について説明できるようにする)				
	8	犬の疾病についてのポスター制作 ⑤(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)				
	9	猫の疾病についてのポスター制作 ①(疾病について調べ、どのような病気・症状なのかを理解する)				
	10	猫の疾病についてのポスター制作 ⑤(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)				
	11	猫の疾病についてのポスター制作 ②(看護のポイントを考える)				
	12	猫の疾病についてのポスター制作 ③(動物看護師が留意すべき点について把握する)				
	13	猫の疾病についてのポスター制作 ④(疾病について説明できるようにする)				
	14	猫の疾病についてのポスター制作 ⑤(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)				
	15	ポスター制作の発表				
評価	最終課題比率	35%	授業参加度	50%	出席	15%
	最終課題の方法	指定の課題				
	授業参加度の方法	中間発表や取り組む姿勢				
使用教科書・教材						
注意事項						
関連科目		すべて				

科目名	グルーミング実習			開講期	1～3年	
単位時間	45～495	コマ数	24～264	単位数	1～11	
授業形態	実習	科目区分	選択必修	担当講師	山田	
科目概要	様々な犬種に実際触れながら、犬の状態の把握しつつ、道具の使用・保定・グルーミングについて解説、実習を行います。					
到達目標	基本的な道具の使用法、犬への対応、シャンプー＆ブローの基礎技能、ベーシックの基本技能を修得します。 時間数(単位数)に応じて技能技術を発展的に修得します。					
科目概要 授業計画	1	実習室の使用方法、清掃・消毒について、講師によるトリミング実演				
	2	道具の正しい持ち方と使用方法				
	3	犬体チェック(皮膚、被毛、耳、目、その他健康状態)				
	4	ベーシック(爪切りと爪やすり)				
	5	ベーシック(足裏バリカン)				
	6	ベーシック(耳掃除)				
	7	ベーシック(ブラッシング)				
	8	ベーシック(肛門腺)				
	9	ベーシック(シャンプー)				
	10	ベーシック(ブロー)				
	11	シザーとコームの正しい使用				
	12	ベーシック(肛門回りカット)				
	13	ベーシック(足回りカット)				
	14	ベーシック(ヒゲカット)				
	15	ベーシック(腹バリ)				
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	35%	出席	15%
	最終課題の方法 授業参加度の 方法	筆記試験 2コマ1回の授業での授業参加点は最高15点。180～145→70点 144～96→60点 95～72→50点 71～60→40点 59～→30点。				
使用教科書・教材		プリントなど				
注意事項						
関連科目						

科目名		業界研修		開講期	1～3年
単位時間	45～270	コマ数	23～135	単位数	1～6
授業形態	実習	科目区分	選択必修	担当講師	高砂
科目概要		<p>動物分野には様々な現場がある。また、それぞれの現場において、社会的役割があり、共通した認識、実務がある。そのつながり、関連性を体験し、携わる方々の声や姿勢を学び、実務及びコミュニケーションを修得することは、今後の職業人としての人生に有益である。</p> <p>動物病院、動物保護団体、動物取扱業および産業動物分野など、あらゆる分野を対象として、学外実習により学びを得る。</p>			
到達目標		<p>現場での身構え・気構え・心構えを学び、自らの視野を広げ、業界への理解を深め、学校での学びに活かし、自らの進路を自信をもって選択できるようになる。</p>			
科目概要 授業計画	1	業界研究：業界の成り立ち			
	2	業界研究：社会的役割			
	3	現場実習：スタッフコミュニケーション			
	4	現場実習：1日の流れ			
	5	現場実習：衛生管理			
	6	現場実習：顧客対応			
	7	現場実習：専門分野			
	8	現場実習：インシデント・危機管理			
	9	現場実習：適切な記録			
	10	現場実習：やりがい・モチベーション			
	11	振り返り：日誌			
	12	振り返り：学びを文章や資料にまとめ共有する			
	13				
	14				
	15				
評価	最終課題比率	40%	授業参加度	60%	出席
	最終課題の方法	指定の課題	日誌および最終提出物		
	授業参加度の方法	日誌の記述 実習担当者の評価			
使用教科書・教材					
注意事項					
関連科目		ペット関連産業概論			

科目名	産業動物学実習		開講期	1～3年	
単位時間	45～135	コマ数	23～68	単位数	1～3
授業形態	実習	科目区分	選択必修	担当講師	門田
科目概要	<p>産業動物学実習は人の経済的利益のために存在し、愛玩動物とは異なる考え方および飼養管理がなされる。獣医学において核となる分野であり、動物看護師も共有すべき分野である。</p> <p>学んだ動物福祉の考え方が今後活かされていくことを踏まえつつ、産業動物の社会的意義と実際の現場を体験し生きた学びを得る。</p>				
到達目標	<p>産業動物と愛玩動物の違い、動物福祉の観点から再検討し、両者を発展的に考えられるようになる。</p>				
科目概要 授業計画	1	業界研究: 業界の成り立ち			
	2	業界研究: 社会的役割			
	3	現場実習: スタッフコミュニケーション			
	4	現場実習: 1日の流れ			
	5	現場実習: 衛生管理			
	6	現場実習: 顧客対応			
	7	現場実習: 専門分野			
	8	現場実習: インシデント・危機管理			
	9	現場実習: 適切な記録			
	10	現場実習: やりがい・モチベーション			
	11	振り返り: 日誌			
	12	振り返り: 学びを文章や資料にまとめ共有する			
	13				
	14				
	15				
評価	最終課題比率	40%	授業参加度	60%	出席
	最終課題の方法	指定の課題			
	授業参加度の方法	日誌の記述 実習担当者の評価			
使用教科書・教材					
注意事項					
関連科目		比較動物学			

科目名		動物看護指導実習		開講期	3年	
単位時間	45～90	コマ数	23～45	単位数	1～2	
授業形態	実習	科目区分	選択必修	担当講師	高砂	
科目概要		<p>これまで学んだ知識・技術を伝え、自らの学びの的確さや不足を認識し、定着を図ること、伝える力を発展させることは職業人生においてはOJT(オンジャジョブオーニング)として定番の研修プログラムである。 看護系の実習に入り教員とともにティーチングアシスタントとして取り組むことで、OJTを学生の間で体験することで自らなお学びとします。</p>				
到達目標		<p>後輩への指導ができるようになる。 自らの学びを謙虚に振り返り、発展させることができる。</p>				
科目概要 授業計画	1	例)動物内科看護学実習1年前期 診察室の使用方法和配置場所の確認・清掃について				
	2	アルコール綿花と外耳洗浄用の綿棒への綿花巻き				
	3	聴診器の使用方法和バイタルサイン(TPR)				
	4	シリンジと注射針				
	5	犬の保定(立位・座位・伏臥位) TPR測定				
	6	犬の保定(3パターンと横臥位) TPR測定				
	7	犬の保定とTPRの計測をスムーズに行えるよう意識する				
	8	攻撃性の強い犬への対応についてと口輪・エリザベスカラーの使用方法和				
	9	猫の保定について				
	10	採血時の保定方法				
	11	医療機器の使用方法和				
	12	グローブの装着方法・ガウンの着方				
	13	学校犬猫の健康管理で行う手技について				
	14					
	15					
評価	最終課題比率	50%	授業参加度	40%	出席	10%
	最終課題の方法	筆記試験				
	授業参加度の方法	毎回提出物を期限までに提出するか。授業での質問に対する積極的な発言も考慮。				
使用教科書・教材						
注意事項		スマートフォンは授業中禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。				
関連科目		動物内科看護学実習 動物外科看護学実習 動物臨床検査学実習				

科目名		動物栄養学実習		開講期	3年	
単位時間	45～90	コマ数	23～45	単位数	1～2	
授業形態	実習	科目区分	選択必修	担当講師	牧田 高砂	
科目概要		トリーツから総合栄養食、疾患に配慮したレシピなど、ホームメイドの食餌を実際に調理するなかで、素材や調理法の違いおよびその特徴、嗜好性などを体験・実感できる。また、市販のフードとの比較、メリット、デメリットに関しても随時言及し、考察していく。				
到達目標		栄養学的な根拠に基づいた栄養指導、ホームメイドレシピの提案ができるようになるとともに、市販のフードに関する理解が深まり、飼い主へのより深いアドバイスができるようになること。				
科目概要 授業計画	1	レシピの検証法 カロリー計算、栄養価の評価、給与量について				
	2	副食の与え方:シンプルなボーロを例に				
	3	コミュニケーションツールとしてのトリーツ① 手作りジャーキー				
	4	コミュニケーションツールとしてのトリーツ② クッキー				
	5	総合栄養食① 基本のレシピ 食性から考える食材の選択と調理法について				
	6	レシピ提案・調理:ミートローフ				
	7	総合栄養食② 脂肪酸に注目したレシピ				
	8	レシピ提案・調理:鯖のミルクリゾット				
	9	総合栄養食③ 抗酸化栄養素に注目したレシピ				
	10	総合栄養食③ 消化吸収機能の低下に配慮したレシピ				
	11	総合栄養食④ シニア期に配慮したレシピ				
	12	総合栄養食⑤ 食餌性アレルギーに配慮したレシピ				
	13	総合栄養食⑥ 肥満に配慮したレシピ 効果的な減量法の提案				
	14	慢性腎疾患に提案できる嗜好性の高い副食				
	15	各自レシピ作成				
評価	最終課題比率	20%	授業参加度	70%	出席	10%
	最終課題の方法	レポート 最終回で考案したレシピを完成させてレポートとして提出する				
	授業参加度の方法	レシピに従って実際に作成したフードに関するレポート課題をその都度提出				
使用教科書・教材		プリント、食材、調理器具				
注意事項		飲料持ち込み可、スマートフォン・タブレット使用可				
関連科目		動物栄養学				